



ボランティア活動サポート募金

関西大学ボランティアセンターは、本学学生の公益に適った社会参画活動を支援することにより、学生の自主性と社会性の涵養に資することを目的として、2005年4月に大阪府内の大学で初めて開設されました。

ボランティア活動サポート募金は、ボランティアセンターが主催・連携する事業等に参加する本学学生のボランティア活動を支援するための募金です。

未来へ繋がる関大生の社会貢献活動を応援いただき、皆さまのご支援を心よりお願いいたします。

ご依頼金額

1口 1,000円

※口数に関係なくお申込みいただけます。

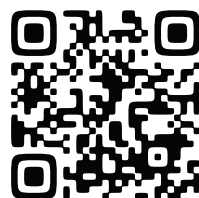
お申込み・お振込みについて

払込取扱票もしくはインターネットからお申込みしていただくことができます。

払込取扱票

書面専用の「払込取扱票（振込通知書）」に必要事項をご記入のうえ、銀行振込または郵便振替でお振込みください。

募金趣意書など必要書類は資料請求・お問い合わせページよりご請求いただけます。



資料請求・問合せ

2025年度

活動報告書

第20号

ボランティアセンター設立20周年記念号

2025年度活動報告書

Vol.20

th



ANNIVERSARY

関西大学ボランティアセンターは 20周年を迎えました



関西大学ボランティアセンター



関西大学ボランティアセンター

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL: 06-6368-1229
FAX: 06-6330-3703
E-mail: volunteer@ml.kandai.jp



KANDAI for SDGs



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



関西大学は持続可能な開発目標(SDG)を支援しています。

「2025年度 活動報告書」の刊行に寄せて

経済学部・教授 石 井 光
(2024年10月～学生センター所長)

関西大学ボランティアセンターは、2005年4月に大阪府内の大学として初めて設置され、2025年度に設立20周年を迎えました。本報告書は、この節目の年における学生諸君の活動と、その歩みを記録したものです。20年にわたり、多くの学生が本センターを通じてボランティア活動に参加し、教室では学ぶことのできない現実の社会課題と向き合いながら、自身の価値観や行動を磨いてきました。こうした活動が継続できているのは、学内外の関係各位からの温かいご理解とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本センターの活動の特徴は、学生が「支援する側」になることを通して、自ら考え、試行錯誤し、他者と協働する力を育んでいる点にあります。学生スタッフを中心に企画・運営されるボランティア活動では、社会課題に対する問題意識を深めるだけでなく、関係者との調整力、仲間と意見を交わす対話力、そして行動に踏み出す勇気が培われています。SDGsに関連する環境保全活動、地域貢献、子どもや高齢者の支援など、幅広い分野での経験は、学生一人ひとりの視野を大きく広げています。

2025年度は、設立20周年事業として、これまでの活動を振り返るとともに、学生自身が本センターの意義や役割を再認識する一年となりました。情宣活動では、自らの言葉で活動の魅力や想いを発信する機会を通じて、社会に向けた伝え方や責任を学びました。また、学外でのボランティア活動では、慣れない環境や多様な立場の人々との協働を経験し、自らの行動が誰かの支えにつながる実感を得る場面が数多く見られました。

年度末に開催した記念講演会および活動報告会では、過去から現在に至る学生の活動が共有されるとともに、自分たちの経験を言語化し、次の世代へつなぐ役割を理解する機会となりました。学生たちは先輩たちの歩みから刺激を受ける一方で、自らが築いてきた経験に自信を持ち、今後どのように社会と関わっていくかを主体的に考える姿勢を見せています。

これらの経験を通じて、学生は単なる「ボランティア参加者」から、「社会の一員として行動する担い手」へと成長していきます。本センターにおける20周年は、その成長の積み重ねの証であり、同時に次の時代に向けた新たな出発点でもあります。

関西大学ボランティアセンターは、今後も“学生が社会と関わりながら自ら成長していく場”として、学びと実践を結びつける役割を果たしてまいります。本報告書が、学生たちの挑戦と成長の軌跡を伝えるとともに、ボランティア活動の意義を共有する一助となれば幸いです。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ボランティアセンター設立20周年に寄せて

総合情報学部・教授 谷 本 奈 穂
(2024年10月～学生センター副所長)

関西大学ボランティアセンターは、2025年度に設立20周年を迎えました。本報告書は、その節目の年における活動の記録であると同時に、本センターを支えてくださった多くの人々との関わりの積み重ねを示すものでもあります。学生、教職員、地域、行政、連携団体など、数多くの関係者がそれぞれの立場で関わり続けてくださったことに、あらためて深い敬意と感謝を表したいと思います。

副所長という立場から日々感じているのは、本センターの活動は、個々の企画や一つひとつの成果によって成り立っているだけでなく、それらを支える「仕組み」や「関係性」によって継続されてきたということです。学生が安心して挑戦できる環境、失敗から学び直せる土壌、そして社会と大学をつなぐ調整の積み重ねが、20年間の活動の基盤となっています。

2025年度は、設立20周年事業として、情報発信の強化や本センター初の取組みとなる被災地でのボランティア活動を実施するとともに、年度末には記念講演会および活動報告会を開催しました。これらの取組を支える過程では、学生の主体性を尊重しながらも、安全面や継続性に配慮した運営、関係機関との丁寧な調整が欠かせませんでした。その一つ一つのプロセスを通じて、学生と職員が同じ方向を向き、協力し合う関係がより強化されたことは、本年度の大きな成果であったと感じています。

また、20周年という節目は、これまで築いてきた活動を次の世代へどのように引き継いでいくかを考える機会ともなりました。学生スタッフは年度ごとに入れ替わりますが、活動に込められた想いや経験は、記録や対話を通じて確実に受け継がれています。記念事業や報告会は、過去の取組を共有する場であると同時に、未来の担い手が自らの役割を見つめ直す場としても、大きな意義を持ちました。

ボランティア活動は、社会課題への関心や行動力を育むだけでなく、人と人、人と社会をつなぐ営みでもあります。本センターの役割は、そのつながりが一過性のものに終わらないよう支え続けることにあります。副所長として、今後も現場の声に耳を傾けながら、学生の挑戦を後方から支える存在でありたいと考えています。

本報告書が、関西大学ボランティアセンターの活動を理解する一助となるとともに、これからのボランティアの在り方を考えるきっかけとなれば幸いです。

今後とも、本センターの取組へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

開設から20年 学生スタッフの成長とともに

2011年度ボランティア活動支援グループ グループ長補佐 神 藤 典 子
(2005～2011年度所属)

20周年おめでとうございます！

私は、2005年のボランティアセンター開設時のメンバーの1人です。当時は、大阪府内の大学にはまだボランティアセンターはなく、私自身も学生生活課奨学金担当との兼務で、「ボランティアセンターを開設せよ！」との辞令が出たことによって、はじめて大学ボランティアセンターというものを意識したくらいの知識しかない状態でした。

新しいものに取り組むことは苦手ではなかったとはいえ、3万人を擁する関西大学の1つの部署を創るという業務は想像以上に大変なことでした。モデルとなるものがない中、自らの勘を働かせ、内示後すぐに大阪ボランティア協会を尋ね、一からボランティアというものを学びました。その後、吹田市社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会にご挨拶をし、先進の大学（関西では龍谷大学様、関東では明治学院大学様、立教大学様、早稲田大学様）を訪問し、様々ご教示いただき、大学ボランティアセンターの骨格（内規、基本方針、ボランティア紹介の基本方針等々）を作っていました。

ボランティアとは、個人の想いを起点に動くということが最大のメリットであるのに対して、大学の一部署という立場は、ときに、組織の意向を最優先にしてものごとを決定せざるを得ない場面もあり、相反する矛盾を常に抱えていました。

開設にあたり最も重要だと考えたのは、大学ボランティアセンターの存在理由です。学外には様々な組織があります。大学にあえてボランティアセンターを設置する目的は何か。ボランティア活動に踏み出せない人に一歩踏み出す勇気や、きっかけを与えることではないかと考え、学生スタッフを育成し、学生スタッフとともに、ボランティアセンターを運営することにしました。苦楽をともにしてくださった教職員だけでなく、元々私は中学校教員になりたかったこともあり、他部署ではみられないほど近い距離感で学生スタッフと日々過ごせたこの7年間は、私の40年の職員生活の中でも、最も充実した日々となりました。学生スタッフとともに、悩み、苦しみ、喜び、楽しみ、泣き、笑い…そして、ボランティアセンターに関わるすべてのひと、できごと等々とのふれあいに心癒された日々でした。

20周年を迎えてボランティアセンターの成長は目覚ましいものがあります。さらにこれからの社会は目まぐるしく変わっていくことでしょう。

そんな中であって、関西大学ボランティアセンターには、今後も学生一人ひとりがそれぞれのボランティア活動に参加してよかったなあ、人と出会えてよかったなあと思えるような、人やものごとを“つなぐ場”であり続けてほしいと願っています。

目 次

「2025年度 活動報告書」の刊行に寄せて
ボランティアセンター設立20周年に寄せて
開設から20年 学生スタッフの成長とともに

ボランティアセンター長 石井 光
学生センター副所長 谷本 奈穂
2011年度ボランティアセンター事務長補佐 神藤 典子

I 2025年度ボランティアセンターについて

1	ボランティアセンターとは	1
	(1) ボランティアセンターの概要	1
	(2) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援	2
	(3) 年間事業一覧	3
2	設立20周年記念事業報告	4
3	2025年度ボランティアセンター事業報告	10
	(1) ボランティアセンター主催事業	10
	(2) ボランティアセンター主催講座	14
	(3) 他団体との連携事業	18

II ボランティアセンター学生スタッフについて

1	ボランティアセンター学生スタッフとは	25
2	ボランティアセンター学生スタッフ事業報告	26
	(1) ボランティア体験ツアー	26
	(2) 広報活動	35
	(3) その他の活動	36
3	学生スタッフ代表からのメッセージ	37

III 学内ボランティア団体について

1	学内ボランティア団体の概要	39
	(1) 学内ボランティア団体の概要	39
	(2) 学内ボランティア団体への支援	39
2	学内ボランティア団体の紹介	40

IV ボランティア活動サポート募金について

1	使途報告とお礼	47
---	---------	----

V	資料	49
---	----	----

I 2025年度ボランティアセンターについて

I ボランティアセンターとは

- (1) ボランティアセンターの概要 p 1
- (2) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援 p 2
- (3) 年間事業一覧 p 3

2 設立20周年記念事業報告 p 4

3 2025年度ボランティアセンター事業報告

(1) ボランティアセンター主催事業

- ・献血呼びかけボランティア..... p 10
- ・写真洗浄ボランティア..... p 10
- ・1000000人のキャンドルナイト茶屋町スロウデイ2025 p 11
- ・令和OSAKA天の川伝説2025サポートボランティア p 11
- ・琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2025～ p 12
- ・まちFUNまつり in 関西大学2025～子ども店長サポートボランティア～ p 12
- ・大阪マラソン2026給水ボランティア p 13
- ・飛鳥ハーフマラソン給食ボランティア2026 p 13

(2) ボランティアセンター主催講座

- ・ボランティアセミナー 2025..... p 14
- ・災害ボランティアガイダンス2025 p 14
- ・テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé2025」 p 15
- ・コミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」講座（全3回） p 17

(3) 他団体との連携事業

- ・連携事業一覧..... p 18
- ・大阪家庭少年友の会 試験観察中の非行少年への学習指導ボランティア p 18
- ・関西大学・法政大学・明治大学 三大学連携協定に基づく事業 p 22
- ・人間健康学部による堺市との連携事業..... p 23



I ボランティアセンターとは

(I) ボランティアセンターの概要



2005年	関西大学ボランティアセンター設立 →大阪府の大学初
2006年	学生スタッフによるボランティアコーディネート開始 →当時はボランティア活動相談コーナーという名称
2010年	<ボランティアセンター登録者数累計1,000名を突破>
2011年	「第1回 淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」開催 →初の試みとして総勢約500名で清掃活動を実施
2013年	学生スタッフの活動拠点として「ボランティア・エリア」開設
2015年	ボランティアセンター設立10周年記念事業を展開 →大阪ボランティア協会常務理事 早瀬昇氏による講演会
2016年	関西大学創立130周年記念事業を展開 →元阪神タイガース赤星憲広氏と山縣文治教授による対談 「走った数をみんなの笑顔に」～赤星流☆ボランティアのススメ～開催
2017年	「第1回 大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」開催 →総勢約300名で清掃活動を実施
2019年	誠之館2号館1階「ボランティアステーション」開設 <ボランティアセンター登録者数累計5,000名を突破>
2022年	ボランティア活動サポート募金の開始
2024年	マイクロプラスチックプロジェクト 「大阪湾清掃～堺浜クリーン大作戦～」開催
2025年	関西大学ボランティアセンター設立20周年

2005（平成17）年4月1日、関西大学ボランティアセンターは、本学学生の公益に適った社会参画活動の支援を目的に、学生の自主性と社会性の涵養に資するために開設された。大阪府内初の大学ボランティアセンターであり、当時、「ボランティアセンター」という組織が設置されている大学は全国的にも希少で、大学業務としては全く未知の分野であった。設立当初は約20名の有志の学生スタッフとともに、手探りながらボランティアセンターの礎を築いた。

個人だけでなく社会全体の幸福、持続可能な世界の実現を求める現代において、ボランティア活動を通じてさまざまな人と交流し、多くの価値観に触れ、仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって広い視野をもってさまざまな問題を自分事として捉えられるようになるための貴重な気づきと成長の機会となる。また、全ての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、ボランティアセンターは大学の社会貢献活動の重要な柱として、多様な支援活動を展開している。

大学のボランティアセンターは、社会福祉協議会のように「明確にボランティアをしたいという意思を持った人」が集う場所ではない。しかし、ボランティア活動に関心のない学生がボランティアをはじめのきっかけを創り、ボランティア人口を広げる場所として、学生スタッフとともに歩み続ける。

(2) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援

ボランティアセンターには、大学における組織の一員として、「ボランティアセンター職員とともにセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動する学生スタッフが所属している。

学生スタッフは、誠之館2号館1階のボランティアステーションを拠点に、関大生が参加しやすいボランティアプログラム「ボランティア体験ツアー」の企画・運営や、月曜日から金曜日のお昼休みの時間帯に、ボランティアに関心のある学生やこれから始めてみたい学生に対してボランティアを紹介する「ボランティアコーディネート」を行っている。また、ボランティアセンターの取り組みを広く学内外へ発信する広報活動にも積極的に取り組んでいる。

ボランティアセンターでは、関大生のボランティア活動を推進したいという意欲ある学生を学生スタッフとして受け入れていることから、ボランティア活動の魅力を伝えることができる学生スタッフの育成をめざした「学生スタッフ養成プログラム」を実施する等、学生スタッフの活動の質を高めるための支援を行っている。

2025年度の学生スタッフ募集は、4月15日（火）～17日（木）・25日（金）実施「学生スタッフ募集説明会」に参加したうえで、ボランティア体験ツアーおよびボランティア入門講座受講・ボランティアコーディネート見学を必須参加として、登録申請書の提出をもって正式加入とした。

<学生スタッフ養成プログラム紹介>

(ア) ボランティアセンター主催「学生スタッフ募集説明会」

1～2年次生を対象に学生スタッフの役割を正しく理解してもらうことを目的として、ボランティアセンターの運営体制や学生スタッフの活動内容について、詳細に説明した。

(イ) ボランティア入門講座「ボランティアセミナー 2025」（オンデマンド配信）

ボランティアの基本的な概念、ボランティア活動によって得られる力などについて理解することを目的として、市居 利絵氏（大阪ボランティア協会）にご講演いただいた。

(ウ) 新規学生スタッフ1day養成プログラム

学生スタッフとして活動する上で必要な基礎知識の習得と実践的なスキルの向上を目的として実施した。書類作成やボランティアコーディネートの説明、Canvaを活用した実践を通して、ボランティア活動の魅力を伝えることができる学生スタッフの育成を図った。

(エ) ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（夏・春）

養成合宿という名のもとに、学生スタッフ間の交流だけではなく、ワークを通してお互いの考え方を知ることや自分たちの1年間の活動を振り返り、改善点を共有することで次年度の活動を考える機会とした。



学生スタッフ募集説明会



新規学生スタッフ1day養成プログラム



学生スタッフ養成合宿（夏）

(3) 年間事業一覧

	ボランティアセンター行事	
	イベント・講座・講演会等 ★ボランティアセンター主催事業、◎20周年事業	学生スタッフの活動 ○ボランティア体験ツアー
4月	・新入生ガイダンス（新入生指導行事） ・学生スタッフ募集説明会 ★献血呼びかけボランティア ・テーマ別講座「ボラcafé」（全2回）	・新入生歓迎オリエンテーション ・ボランティアフェスティバル 2025 ○関大クリーン大作戦 in 梅田 ○淀川清掃 ・ボラリーWEEK
5月	・ボランティアセミナー2025 ★献血呼びかけボランティア ・法政大学主催事業「富士山森づくりボランティア」 ★◎(20周年)写真洗浄ボランティア	○高槻景観美化ボランティア ○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里 ○関大クリーン大作戦 in 高槻 ・ボラリーWEEK
6月	★1000000人のキャンドルナイト 茶屋町スロウデイ2025 ・災害ボランティアガイダンス 2025 ★◎(20周年)写真洗浄ボランティア ・コミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」 講座（全3回） ・◎(20周年)被災地支援活動オリエンテーション ・◎(20周年)復興を願う花火打上げ募金活動	○スポーツゴミ拾い ○関大クリーン大作戦 in 梅田 ○淀川清掃 ○関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ ○吹田くわい植え付けボランティア ○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里
7月	★献血呼びかけボランティア ★令和 OSAKA 天の川伝説サポートボランティア2025 ★◎(20周年)写真洗浄ボランティア	○大阪夏の陣～大阪城周辺の清掃～ ○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里 ○ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～
8月	★◎(20周年)写真洗浄ボランティア ・学生スタッフ 1day 養成講座 ・サマーキャンパス千里山	○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里
9月	★◎(20周年)写真洗浄ボランティア in 能登 ★◎(20周年)被災地支援活動に係る振返会 ・テーマ別講座「マイクロプラスチック・ストーリー ばくらが作る 2050年」映画上映会&座談会	・学生スタッフ養成合宿（夏） ・ボラリーWEEK
10月	・琵琶湖環境保全講座 ★◎(20周年)マイクロプラスチックプロジェクト 友ヶ島清掃ツアー ・テーマ別講座「ボラcafé」（全3回） ★献血呼びかけボランティア	○淀川清掃
11月	★琵琶湖ツーリズム！ ～大学生で考える環境ボランティアの未来2025 （実践編）～	○統一学園祭 遊んで学ぼう！環境問題アドベンチャー ○関大クリーン大作戦 in 梅田 ○高槻景観美化ボランティア ○関大×関学 梅田クリーン大作戦 ○関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ ○関大クリーン大作戦 in 高槻 ・なんば清掃
12月		○関大クリーン大作戦 in 梅田 ○ビーチクリーン in マーブルビーチ ○吹田くわい収穫ボランティア（全4回） ○関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ ○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里 ○ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～ ○大阪冬の陣～大阪城周辺の清掃～
1月	★献血呼びかけボランティア	
2月	★大阪マラソン 2026 給水ボランティア	○ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～ ○なんば大清掃 ○淀川大塚地区魅力発見プロジェクト 大塚冒険王！
3月	★飛鳥ハーフマラソン 2026 給食ボランティア ★◎(20周年)記念講演会・活動報告会	・学生スタッフ養成合宿（春） ○関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い ○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里 （全3回） ・淀川清掃 ○子どもと文化に親しもう！日本昔遊び

2 設立20周年記念事業報告



関西大学ボランティアセンターは、2025年に設立20周年を迎えました。
20周年の節目にあたり、学内外を問わず本学ボランティアセンターの認知度向上を図るとともに、学生がボランティアの背景にある多様な社会課題を理解し、自ら主体的に社会に関わりボランティア活動を実践する機会を創出することを目的として、情宣活動・ボランティアプログラム・講演会を実施しました。

情宣活動

腕章・のぼり

従来のデザインを見直し、本学学生がボランティア活動中に着用する腕章およびボランティアセンターののぼりをリニューアルしました。

設立20周年記念特別号 Volury

本学学生にボランティアの魅力を広めることを目的に、年2～3回、ボランティアセンターの機関紙「Volury」を発行しています。特別号として、本センター20年の歩みとともに2025年度に実施した設立20周年記念事業の特集を掲載しました。

ボランティアセンターウェブサイト 20周年特設サイト

ボランティアセンター設立から20年の歴史を振り返るとともにボランティア活動の実績、設立20周年記念事業の活動報告を掲載した特設サイトを開設しました。

1年間ゴミ袋チャレンジ企画

ボランティアセンター主催事業およびボランティア体験ツアーとして実施した清掃活動で回収したゴミ袋とゴミの量を記録し、ボランティアセンター前およびウェブサイトにて公開しました。2025年度は23事業において9,676 kgものゴミを回収しました。

20周年特設サイト

デジタルデバイスで検索いただくか、下記二次元コードからも閲覧可能です。



関西大学ボランティアセンターは
20周年を迎えました

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------|--------------------------|---------------------|-------------------|---------------------|-------------------------------|
| ボランティア
センター長から
のご挨拶 | 20周年記念
イベント | 学生
スタッフからの
メッセージ動画 | 20年の歩みと
ボランティア実績 | 映像で振り返る
20年の歴史 | 過去の
ボランティア
活動 | ボランティア活動
サポート委員会協力
のお祝い |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |



腕章



Volury



のぼり





マイクロプラスチックプロジェクト 友ヶ島清掃ツアー



環境問題への理解を深めることを目的に、事前学習と実践を組み合わせる「マイクロプラスチックプロジェクト」を実施しました。

本プロジェクトでは、映画『マイクロプラスチックストーリー～ぼくらがつくる2050年～』上映を通じた学びと、実際の環境保全活動を結びつけることで、マイクロプラスチックをはじめとする海洋ゴミ問題を「自分ごと」として捉える機会を創出しました。

日程	内容	人数	場所
9/21(日)	映画上映会・座談会	24名	イノベーション創生センター 2階T-Space205.206
10/5(日)	友ヶ島清掃ツアー	41名	和歌山県 友ヶ島

事前学習

映画上映会・座談会

本映画は、ニューヨークの小学生たちが、自分たちの未来を見据えながらプラスチック汚染問題に向かい、その解決に向けて行動する過程を記録した長編ドキュメンタリーです。子どもたちの素朴な疑問を丁寧に重ねて、専門家がそれに回答することでプラスチック汚染問題をわかりやすく解き明かしていく内容です。

映画を通して環境問題について学び、環境保全活動の意義を再確認するきっかけとすることを目的として実施しました。



実践

友ヶ島清掃ツアー

本センターではこれまでの20年間、淀川清掃や大阪湾の海岸清掃に取り組んできました。川や海に流れ出たゴミの一部は、最終的に友ヶ島周辺に漂着します。友ヶ島は和歌山県和歌山市の沖合にある無人島で、観光やハイキングを目的に多くの人が訪れます。

今回の活動は、川から海、そして島へとつながるゴミの流れを意識しながら、環境保全への理解を深めることを目的として実施しました。

当日は、北垂水海岸と南垂水海岸の2か所の清掃を予定していましたが、雨天のため活動を縮小し、北垂水海岸のみを清掃しました。約1時間の清掃活動を行い、ゴミ袋30袋、約100kgの漂着ゴミを集めることができました。



実績

ゴミ袋の数 **30** 袋 総重量 **100** kg

参加者の声



映画上映会・座談会

映画内でのマイクロプラスチックを出さないという試みは素晴らしいですが、もう既にプラスチックはお菓子の袋、箱、ビニール、ペットボトルなど人々の生活に深く浸透していて、取り返しのつかないところまで来ていると思います。代替品の1つとして木材がありますが、木を伐採するのは環境破壊につながり最良とは言えません。そのためプラスチック製品をポイ捨てするのではなく、リサイクルをすることがいちばんのマイクロプラスチック対策になるのではないかと考えました。(社会学部・1年次生)

友ヶ島清掃ツアー

漂着ゴミの中には日本の商品だけでなく、英語や中国語で書かれた袋なども落ちていたのが衝撃的でした。他にも崩れかけているペットボトルやカンなど、映画で見た物事を実際に見られたのがよかったです。漂着ゴミの中には外国だけではなく、大阪や兵庫など近隣の他府県から流れてくる物もたくさんあると思うので、協力して海洋ゴミ問題に取り組んでいけばいいと感じました。(商学部・2年次生)



被災地支援プロジェクト 写真洗浄ボランティア



被災地支援活動に関心のある学生が現地に行かなくてもできる被災地支援活動に関わるきっかけを提供するために本プロジェクトを実施しました。

写真洗浄活動を通じて被災地の現状を知り、被災者の心に寄り添う経験を経て、学生が自分たちにできることを考え、主体的に行動を起こすきっかけを創出することを目的としました。

日程	人数	場所
5/15(木)	18名	千里山キャンパス 第4学舎4号館4202教室
6/18(水)	14名	梅田キャンパス601教室
7/9(水)	12名	梅田キャンパス701教室
8/4(月)	19名	千里山キャンパス 第4学舎4号館4101教室



写真洗浄ボランティア

写真洗浄とは、自然災害などで泥や水で汚れてしまった写真を、1枚ずつ丁寧に洗浄し、持ち主の方へお返しする復興支援活動です。スマートフォンが普及する前の思い出の記録は、写真としてしか残っていないことも多くあります。被災地では、大切な家族写真やアルバムが失われてしまうケースも少なくありません。

活動前におたがいさまプロジェクトの大竹修氏より被災地の現状、防災、減災についての講義や活動動画を視聴し、石川県輪島市で被災した方からお預かりした写真を全4回に分けて洗浄活動を実施しました。

復興を願う花火打ち上げ募金活動

石川県能登半島地震から1年半が経過した今(※2025年7月時点)もなお、復興への歩みは続いており、日々の不安や喪失感の中で、心の癒しや楽しみとなる機会が失われている現状があります。

学生が中心となって行う復興支援活動の一環として、被災地・輪島市道下地区およびその周辺地域の皆さまに向けて、「復興への願い」を込めた花火の打ち上げを企画し、関西をはじめとする全国の皆さまからのご支援(募金)を募りました。

ただの資金集めではなく、「離れた地域にも応援してくれる人がいる」「全国の人たちが自分たちの復興を願ってくれている」という想いを、花火を通じて被災された方々に届けることを目的として実施しました。



実績

洗浄した写真 約 **500** 枚 写真洗浄活動に携わった関大生 延べ **77** 名

写真洗浄ボランティア

※現地活動に参加する学生向け事前説明会での写真洗浄活動参加学生含む

参加者の声



募金活動

実際に活動してみると想像以上に写真を綺麗にするのが難しく、集中力もかなり必要でした。活動を通して、今まで会ったことのない、けれどもこうやって同じ意思を持ってボランティア活動に参加した同級生と話せたことが嬉しかったです。

また、能登半島の現在の復興状況や、被災された方がどんな思いで思い出の詰まった写真の洗浄依頼をしたのかを知ることができ、嬉しかったです。また、結婚式に写真の動画を流されたことを聞いた時には感動して涙が出そうになりました。(総合情報学部・1年次生)

写真洗浄ボランティアを通して、被災された方々のためにできることがあれば、少しでも協力したいと思い募金活動に参加しました。募金活動をするのは初めてで、最初は緊張してしまい、声かけが少なめで、声も小さめでした。ですが、続けるうちに一緒に募金活動を行うメンバーの熱意が伝わってきて、どんどん積極的に声かけやビラ配りができたと思います。想像以上に多くの方が募金してくださって、多くの方の親切を間近に感じる事ができて、とても温かい気持ちになりました。(経済学部・2年次生)





被災地支援プロジェクト

写真洗浄ボランティア

～関西大学から届ける能登への想い～

これまでボランティアセンターでは現地での被災地支援活動を実施していませんでした。20周年の節目の年に、被災地支援活動に関心のある14名の学生が写真洗浄ボランティアを経て、写真を持ち主に返却することを主目的として実施しました。

今回の活動は、9月12日(金)～14日(日)の2泊3日で石川県輪島市門前町を中心に活動しました。

延べ77名もの関大生が洗浄した写真の返却会や傾聴活動等の被災地での活動を通じて、被災地の現状を知り、被災者の心に寄り添う経験を経て、学生が自分たちにできることを考え、主体的に行動を起こすきっかけを創出することを目的としました。

日程	活動内容
9/12(金)	現地視察・講義・足湯傾聴の練習会
9/13(土)	写真返却会・お茶会・足湯傾聴活動・ご飯会・花火
9/14(日)	腰細地区での海岸清掃



写真返却会

関大生延べ77名が洗浄した写真を、10冊のアルバムにまとめて持ち主の方へ返却しました。持ち主の方は涙を流して喜ばれている様子でした。写真の返却後には、震災当時の様子を伺い、力強さとともに喪失の悲しみに触れる機会となりました。

復興を願う花火の打ち上げ

学生による学内外への募金協力の呼びかけに、多くの方からご賛同をいただき、約77万円の募金が集まりました。

8分間、約350発の復興祈願花火を打ち上げることができ、現地の方とともに花火を見上げながら、復興への願いを共有しました。

足湯傾聴活動

仮設住宅にお住まいの現地の方々に少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたいとレクリエーションやお話をしながら足湯と手のマッサージを通じて心身を癒していただく足湯傾聴を実施した。

学生たちは前夜に練習を重ね、被災された方々の気持ちに寄り添うことを大切に、笑顔で活動に取り組みました。

海岸清掃

区長様や住民の方々、災害支援チーム「いいすまいる」の皆さんと力を合わせ、漂流ゴミを回収しました。

地震による海岸の隆起でゴミがたまりやすくなった現地での作業は、体力を要しましたが、地域の方々からのお茶の差し入れや温かい励ましに支えられました。

ご飯会

現地の集会所にて地元の方に集まっていただき、非常食のカップ麺をアレンジした関西名物「お好み焼き」約100食を学生が調理して提供しました。学生たちは事前学習会において調理の練習を重ね、本番に向けて準備を進めていました。

当日参加いただいた地元の方からは、「すごくおいしい!」

「作り方を教えてほしい」と大変好評でした。

地元団体「笑HAHA・とうげ組」の方々によるあんみつのふるまいや、サントリーホールディングス様からの飲料提供もあり、地域・企業・大学が連携して取り組みました。



関西大学ボランティアセンターウェブサイトにて、20周年記念事業として2つのプロジェクトの活動参加学生の活動報告および活動概要・活動内容を掲載しております。上記二次元コードからご確認ください。

実績

ゴミ袋の数
1tサイズフレコンバッグ

28袋

総重量

8,412 kg



関西大学ボランティアセンター設立20周年 記念講演会・活動報告会



関西大学ボランティアセンター設立20周年の節目にあたり、これまで継続して取り組んできた多様なボランティア活動を振り返るとともに、今後のさらなる発展と社会への貢献のあり方を考えることを目的として、記念講演を実施しました。

当日は2025年度に実施した各種プロジェクトや被災地支援、地域連携活動などの成果をもとに、学生スタッフが主体となって活動報告を行い、次世代へとつながるボランティア活動の意義と可能性を再認識するとともにさらなる発展を考える機会となりました。

学内外から104名の参加者を迎え、本センターが教育機関として先駆的に大学ボランティアセンターを設立して以来、ボランティアを取り巻く社会課題やニーズの変化に対応しながら、本学学生の自主性・社会性の涵養に取り組んだ20年の歩みを振り返る機会となりました。



【第1部】記念講演会

20年のボランティアが語る、次の一歩

登壇者 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 理事長 早瀬 昇 氏

ボランティア元年から約30年、当センター設立から20年の歩みを振り返る中で、社会情勢の変化とともにボランティア活動がどのように展開してきたのかについて、多くの示唆が得られました。ボランティアのキーワード「自発性・主体性」「社会性・公益性」「無償性」をはじめ、学生がボランティア活動に参加するきっかけとしての内発的意欲を高める3つの鍵を中心に早瀬先生の経験談も含めてご講演いただきました。会場全体で次世代に求められるボランティアについて考える機会となりました。



20周年記念ボランティアイベント活動報告

登壇者 関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

関西大学ボランティアセンター設立20周年記念事業として実施した「被災地支援プロジェクト」に参加した学生スタッフ2年次生 塚元 琳太郎さん・村木 継弥さん、「マイクロプラスチックプロジェクト」に参加した学生スタッフ2年次生 大久保 莉花さん・中島 優花さんより活動報告を行いました。活動時の写真だけでなく動画も交えながら、学生自身の想いや活動を通じて感じた学び、活動のやりがいを報告しました。



【第1部】パネルディスカッション

これからのボランティアセンターがめざすもの

パネリストとして大阪ボランティア協会理事長 早瀬 昇氏と大阪公立大学ボランティアコーディネーター 松居 勇氏をお招きし、本学在学中に学生スタッフとして熱心にボランティア活動に取り組んでいた卒業生の光岡 尚弥さんと現役の学生スタッフ4年次生 辻本 真風さん、1年次生 粟井 音羽さんによるパネルディスカッション「これからのボランティアセンターがめざすもの」をテーマに実施しました。また、会場参加者との意見交換も交えながら、ボランティア活動の意義や今後の展望について意見を交わしました。

卒業生及び現役の学生スタッフ2名それぞれに「ボランティア活動をしていて楽しかったことや大変だったこと」「印象に残っているボランティア活動」をお話いただきました。

その内容に対して、大阪公立大学で17年間ボランティアコーディネーターとして学生を支援している松居氏からは、「ボランティア活動は観光案内所のようにただ情報を伝えるだけではなく、同じ学生の経験を＋αで伝えることが、参加のきっかけ作りに効果的であると感じている」とご自身の経験談をお話いただきました。



参加者の声



パネルディスカッション

最近よく耳にするタイパ・コスパにあらがうことこそボランティア活動の醍醐味であると感じました。早瀬先生の講演でお話のあった『人生はよろこばせごっこ』という言葉に胸にこれからも継続してボランティア活動を頑張りたいです。(学生スタッフ・4年次生)



関西大学ボランティアセンター設立20周年

記念講演会・活動報告会

【第2部】

学生スタッフ活動報告

登壇者 関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター学生スタッフ

両大学の活動理念および活動目的をはじめ、2025年度の活動報告を実施しました。

報告後には会場参加者との質疑応答を行い、学生スタッフとして抱える課題や各大学・団体の状況について共有しました。参加者相互にとって良い刺激となり、今後の活動のさらなる発展が期待される機会となりました。



交流会

本学学生スタッフおよび卒業生、龍谷大学の学生を混合でグループ分けをして、グループディスカッションを行いました。

今回の講演会を受けた感想だけではなく、「ボランティアは何をもって成功?」「こんなボランティアやってみませんか?」といったテーマを設けて話をしました。

自分たちが日々取り組んでいるボランティア活動について振り返り、さまざまな視点で考えることで、今後のより良い活動に還元できるような時間となりました。



当日は会場前に関西大学ボランティアセンター設立20周年記念事業として実施した「被災地支援プロジェクト」及び「マイクロプラスチックプロジェクト」をはじめ、「1年間ゴミ袋チャレンジ企画」といった学生スタッフの活動展示を実施しました。

また、第1部と第2部の間には懇親会を設け、来場者同士が自由に交流できる機会を創出しました。会場では、旧知の再会を喜ぶ姿や当時の思い出話に花が咲く様子が見られ、終始和やかな雰囲気の中で交流が深められました。

今回の活動報告会にはご参りいただけなかった関係者および卒業生の皆さまから、多くの温かいお祝いのメッセージを頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。以下に、その一部をご紹介します。

- ・ボランティアセンター設立20周年、おめでとうございます。この20年でどれだけ多くの学生がボランティアに関わられたのでしょうか。その活動環境を提供するセンターが20年も前にできていたことに驚きを感じます。今後も益々のご発展と参画学生さんのご活躍をお祈り申し上げます。
- ・20周年誠におめでとうございます。大学ボランティアセンターも市民社会も取り巻く環境は大きく変わり、果たすべき役割にも変化が求められていますが、この20年の蓄積を糧として、ますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。



参加者の声 //



20周年、誠におめでとうございます。学生主体の活動を長年にわたり丁寧に支えてこられた実践に、深く敬意を表します。今回の講演会・活動報告会を通じて、多くの学びと示唆をいただきました。設立20周年という節目に、関西大学ボランティアセンターがこれまで大切にしてきた理念と実践、さらに今後の方向性までを体系的に共有いただける、大変充実した機会でした。講演、学生報告、パネルディスカッション、活動報告会のいずれも内容が具体的で、学生主体の活動をどのように支えるかという点について多くの学びを得ました。

幣学での今後の大学ボランティアセンター運営を考えるうえで示唆に富む会でした。今後とも大学間で情報交換をさせていただければ幸いです。末筆ながら、貴学ならびに貴学ボランティアセンターの益々のご発展をお祈りいたします。貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

学生主体の活動の多様なあり方や可能性を知ることができ、大変有意義な機会でした。特に、活動の見せ方や入り口の設計、学びの共有の仕方など、多くの示唆を得ることができました。一方で、この20年の間にどのような葛藤や試行錯誤を経て現在の活動に至っているのかといったプロセスも共有されることで、より深い学びにつながるのではないかと感じました。



3 2025年度ボランティアセンター事業報告

(1) ボランティアセンター主催事業

ボランティアセンター主催事業は、センター職員主導のボランティアプログラムとして企画・運営する事業である。学生スタッフには当日の運営サポートや一部プログラムの運営を協力してもらい、センター一丸となって取り組んでいる。

1 献血呼びかけボランティア（全10回）

本学では、大阪府赤十字血液センターから、定期的にキャンパスへ献血車を迎えており、若年層の献血者数減少という社会課題解決への貢献をめざしている。本センターでは、献血協力の呼びかけ活動を行う学生ボランティアを募り、前日のビラ配布と当日の協力呼びかけによる、献血協力者増加に向けた社会貢献活動を実施した。

実施日時 4月14日(月)・21日(月)、5月13日(火)・20日(火)、7月3日(木)・10日(木)、10月16日(木)・23日(木)、1月7日(水)・8日(木) 各回12時20分～12時50分

場 所 関西大学千里山キャンパス悠久の庭前

参加者数 延べ33名(学生スタッフ10名、関大生13名)

参加者の声

- ・自分自身が献血をした時に、予想以上に簡単にできたので、もっと献血を身近に感じて欲しいと思い、ビラ配りに参加しました。ビラを受け取ってくれる方がたくさんいて、少し興味を持って説明を聞いてくれる方もいました。献血のビラを配ったことによって、多くの関大生に献血があることを知ってもらうことができたと思いました。(政策・1年次生)
- ・献血に協力してくれる人を1人でも増やしたいという想いで参加しました。積極的な声かけができて良かったです。(商・1年次生)



2 写真洗浄ボランティア（全4回）

被災地に行かなくてもできる支援として、神戸市の被災地支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」と連携し、千里山キャンパスで写真洗浄活動を実施した。活動前には、被災された方々への黙祷を捧げ、お預かりした写真一枚一枚、心を込めて洗浄した。

実施日時 5月15日(木)16時20分～17時50分、6月18日(水)14時00分～15時30分
7月9日(水)14時00分～15時30分、8月4日(月)12時30分～14時00分

場 所 千里山キャンパス第4学舎4号館4101・4202教室、梅田キャンパス601・701教室

参加者数 延べ64名(学生スタッフ5名、関大生59名)

参加者の声

- ・この活動に参加し、ボランティアの素晴らしさを実感しました。「何か行動をしたい」という思いを持った人たちが集まり、遠く離れた場所からでも誰かのために行動できること、そしてその思いが届き、誰かの心を救うきっかけになることは、本当に素晴らしいと思いました。私は今回、被災された方の写真洗浄を行い、被災者された方の話を聞いて、テレビなどで見ていたときは、どこか他人事のように感じていた被災地の現状が、この活動を通して一気に現実味を帯び、心に深く残りました。今後も、自分なりにできることを考えて行動していきたいと思いました。(人・1年次生)



※被災者の写真掲載許可を頂いております



3 1000000人のキャンドルナイト 茶屋町スロウデイ2025

“歩いて楽しいまちづくり”や茶屋町の魅力発信を目的とした本イベントは、訪れた人々が楽しい気持ちになれるような時間や空間を提供することで、地域活性化に貢献することをめざしている。今回は“miracle（奇跡が起きる日）”をテーマに、「軌跡の輝き」と題したキャンドル作品で彩り、写真撮影の補助を行うことで、関大生24名が学生ボランティアとして地域活性化に貢献した。

実施日時 6月4日(水)15時30分～18時30分

場 所 梅田・CHASKA茶屋町

参加者数 24名（学生スタッフ10名、関大生14名）

参加者の声

- ・ 前回の作品がとても綺麗だったので、自分も作るのを手伝いたいと思い参加しました。みんなで協力して作業をするのがとても楽しかったです。(システム理工・1年次生)
- ・ ボランティアというと清掃や献血呼びかけのイメージが強かったのですが、自分たちも地域の人々も楽しめる地域活性化のボランティアはまた別の良さがあるなと感じました。(法・1年次生)



4 令和OSAKA天の川伝説2025 サポートボランティア

水都大阪の魅力を広く発信することで、地域の活性化につなげるとともに、関大生の河川愛護と水環境への関心を高めることを目的として実施した。集まった関大生は、約4万個のいのり星®放流や短冊記入の補助、語学ボランティアとして来場者の案内を担うなど多岐に渡る場面で活躍した。当日は約48,500名の来場者と共に令和7年7月7日という「7」が並ぶ特別な日に幻想的な夜景を楽しみました。

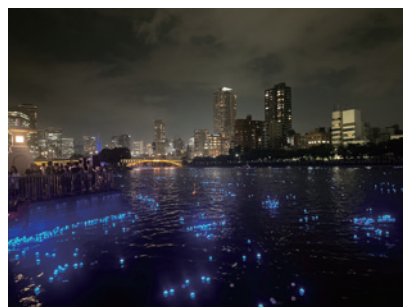
実施日時 7月7日(月)18時15分～21時00分

場 所 大川（天満橋～天神橋周辺）

参加者数 95名（学生スタッフ5名、関大生75名、語学ボランティア15名）

参加者の声

- ・ 私が思っていた以上にたくさんの人が集まり、最初はどのように対応すればよいかわからない部分もあり困惑しましたが、同じボランティアの人やスタッフの方、来場者とお話することで、とてもリラックスして活動に取り組みました。初めてでわからないことが多く、あまり力にはなれなかったと思いますが、また次回ボランティアに参加する機会があれば、もう少し積極的に活動できるように頑張りたいと思いました。(文・1年次生)
- ・ このイベントで見られる景色がとても綺麗で面白そうだと感じたため参加しました。外国の方もたくさん来てくださっていて、日本の七夕の天の川伝説を知ってもらい、興味を持ってもらえるいいイベントだなと感じました。(社・1年次生)



5 琵琶湖ツーリズム！ ～大学生で考える環境ボランティアの未来2025～

通算8回目の実施となる本活動では、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除を行った。午前中は大雨のため大型バスで待機し、午後から約2時間の活動となったが、参加者の協力により1kLフレコンバック92袋、推定約1,025kgもの特定外来生物を駆除することで水域環境の改善に貢献した。

実施日時 11月9日(日)7時50分～18時00分

場 所 滋賀県守山市 第一樋門周辺琵琶湖湖岸（琵琶湖マリオットホテル前）

参加者数 39名（関大生14名、法政大学学生24名、明治大学学生1名）

参加者の声

- ・ 水中での活動は自分が思っていたよりもずっと動きづらく、少しの範囲でも駆除するのが大変でしたが、役割を分担し、互いに助け合いながら駆除活動ができたことが良かったです。（商・2年次生）
- ・ 初めて水草除去活動に参加し、想像以上に体力を奪われる作業だと分かりました。外来種だからという理由で除去しているのではなく、その場の環境や在来種を守るために除去するという趣旨をしっかりと理解したうえで作業出来たことが良かったです。ただ、同時にその場の生物たちの命も多少犠牲にしないといけないという点に関しては、作業をしている途中で残念に感じました。（法政大学 法・1年次生）



6 まちFUNまつり in 関西大学2025 ～子ども店長サポートボランティア～

「地域に開かれた大学」として地域と大学をつなぐイベントの1つとして地域の子どもたちにお金の大切さや働く楽しさを学ぶ場を提供する「子ども店長」のサポートを実施した。

子どもたちが楽しく活動できるような声掛けなどを主体的な姿勢で取り組んだ。活動の中で子どもたちや地域住民との交流を積極的に行い、大学と地域住民、多世代のつながりを深める役割に貢献した。

実施日時 12月14日(日)9時45分～12時45分(午前の部) 12時30分～15時15分(午後の部)

場 所 関西大学千里山キャンパス凜風館

参加者数 7名（学生スタッフ6名、関大生1名）

参加者の声

- ・ 子どもたちが一生懸命仕事に取り組んでいる様子を間近にみることで楽しかったです（商・1年次生）
- ・ 子どもたちと会話しながらコミュニケーションをとるのがとにかく楽しかったです。話しかける声のトーンや口調をどのようにすれば相手が嫌な気持ちにならずに心を開いてくれるのかを意識しながら会話したことが、とても良い経験となりました。（法・1年次生）



7 大阪マラソン2026給水ボランティア

関西大学が第1回大会からオフィシャルスポンサーとして参加している大阪マラソンにおいて、209名の学生ボランティアが6.0km給水所の運営を担った。合計21ブースに分かれ、給水所の設営や給水活動、ゴミ箱の整理などで大会の運営に尽力し、大阪マラソン2026を大いに盛り上げた。

実施日時 2月22日(日)8時00分～12時00分

場 所 大阪マラソン6.0km給水地点（南森町駅南側、北浜駅東側）

参加者数 209名（学生スタッフ12名、体育会学生123名、関大生74名）

参加者の声

- ・ランナーの方たちから「ありがとう！」と言ってもらえて、やりがいを感じる瞬間でもあり、嬉しかったです。次回も機会があればぜひ参加したいです。(文・1年次生)
- ・初めてマラソンのボランティアをしたのですが、想像していたより大変でした。しかし、チームで協力しあうことができ、給水の効率化や後片付けも早く終わらせることができて良かったです。(政策・2年次生)



8 飛鳥ハーフマラソン2026給食ボランティア

関西大学と縁の深い奈良県明日香村で開催される第5回飛鳥ハーフマラソンに、給食ボランティアとして関大生16名が参加した。

大会前日には、マラソンコースにある遺跡を巡り明日香村について知ることで、どのような地域に貢献ができるかを体感・理解した。

大会当日は、明日香村の名産品である「柿の葉寿司」をランナーに声かけとともに提供した。

実施日時 3月7日(土)～3月8日(日)

場 所 奈良県高市郡明日香村

参加者数 16名（学生スタッフ9名、関大生7名）

参加者の声

- ・想像していたよりも寒い中での活動だったので大変でしたが、ランナーの皆さんに「ありがとう、ご苦労さん」と言っていたときにとてもやりがいを感じ、嬉しかったです(社・1年次生)
- ・寒い中ではありましたが、給食・給水時に、「おいしい、生き返る」と、実際に言うてくださったことに、やってよかったと感じました。また、準備や片付けも大変でしたが、協力して積極的に取り組むことの大切さを知ることができました。(法・1年次生)



(2) ボランティアセンター主催講座

ボランティアセンターでは、ボランティアに参加するきっかけづくりとしての講座や、コミュニケーション能力の向上のための講座などを実施している。

1 ボランティアセミナー 2025

ボランティアコーディネーターよりボランティア活動についての理論及び事例について講演を行い、理解を深めることで、ボランティア活動への参加を促すことを目的として開講した。

日 時 5月14日(水) 16時20分～17時50分

動画配信：2025年5月15日(木)～2026年3月20日(金)

場 所 千里山キャンパス第2学舎C204教室 / オンデマンド配信

講 師 大阪ボランティア協会 市居 利絵 氏

参加者数 81名(学内受講者53名、オンデマンド視聴28名)



参加者に聞いてみた！

法学部 1年次生

ボランティア活動について漠然と固いイメージがありましたが、それが払拭されました。ボランティアは誰かのために行ったり、継続する必要があるものかと思っていましたが、そんなことはありませんでした。ボランティアは、自分と他人の両方のために行うものであり、何より楽しむことが大事で、何度でもチャレンジできるということが分かりました。

政策創造学部 1年次生

ボランティアの語源や言葉自体の意味について考えたことが無かったので、無償や奉仕といったイメージが強かったが、今回受講しより自由で自発性があり、創造性のある活動だと分かり、今後そのように取り組みたいと思いました。

2 災害ボランティアガイダンス2025

講師から、実際に被災地で活動する際に必要な事項や、被災地に行かなくてもできる支援の在り方、ボランティア活動の経験談を伺うことで、「災害ボランティア」活動に関する知識を深め、今後学生がより良い意思決定ができるように支援することを目的として開講した。

日 時 6月11日(水) 16時20分～17時50分

場 所 千里山キャンパス第2学舎C204教室 /
オンライン (Zoom)

講 師 大阪ボランティア協会 森本 聡 氏

参加者数 14名(学内受講者9名、オンライン受講者5名)



参加者に聞いてみた！

社会学部 1年次生

瓦礫の撤去や炊き出しなどが災害ボランティアのイメージでしたが、話を聞いてみてそれ以外にも色々できることがあると知ることができて良かったです。

社会安全学部 1年次生

講師のお話を伺い、災害ボランティアが難しく大変なものであると改めて知りました。同時に、微力であっても力になることの大切さや、ボランティアという存在そのものが被災地の方々の心の支えになることを学びました。このお話を通じて、自分に十分な力があるかどうかではなく、まずは活動に参加し貢献したいという思いが強くなりました。

3 テーマ別講座「～知る!聴く!広がる!～ボラcafé2025」

多岐にわたるボランティア活動の背景にある社会課題について知ってもらうことを目的に、平日の昼休みに講座を実施し、気軽に関心のある内容について学べる機会を創出した。

第1回テーマ「海洋ゴミ問題ーマイクロプラスチックについてー」

海洋ゴミが引き起こす環境問題や、大阪湾に流れ着く漂流ゴミの現状について説明があった。また、大阪府による具体的な取り組みとして「OSAKAほかさんマップ」や「おおさかマイボトルパートナーズ」など、日常生活の中で取り組める内容についても詳しくお話しいただいた。

日 時 4月22日（火）12時20分～12時50分

場 所 千里山キャンパス誠之館2号館ボランティアステーション

講 師 大阪府脱炭素・エネルギー政策課 松並 剛史 氏

参加者数 16名



参加者に聞いてみた！

社会学部 2年次生

大阪府ではゴミを減らすために量り売りの制度を導入しており、プラスチックがなかった時代に遡ったやり方で根本的に問題を解決しようとしていることがわかりました。

法学部 1年次生

「ゴーストフィッシング」という言葉や、マイボトルやマイ容器を持ち込むことで、プラスチックゴミ問題に取り組んでいるお店があるということも知りました。今後は大阪府がやっているボランティア活動にも参加してみたいと思いました。

第2回・第4回テーマ「被災地支援 写真洗浄ボランティアについて」

実際にその場で写真洗浄の行程や、写真洗浄をした後の写真を見せていただくことで、学生にとっても写真洗浄を行う意義や「誰かの思い出を残すことが心のケアにもつながる」という団体の理念をより深く感じる事ができる機会となった。

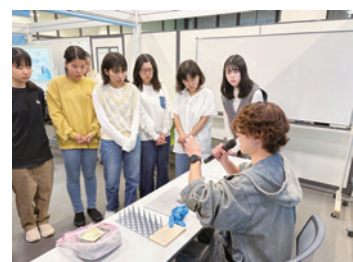
日 時 4月23日（水）12時20分～12時50分

11月19日（水）12時20分～12時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

講 師 おたがいさまプロジェクト 大竹 修 氏

参加者数 延べ26名



参加者に聞いてみた！

システム理工学部 1年次生

現地に行かなくても参加できるボランティアがすごく素敵だなと思いました。実際に被災された方は家が全壊したケースもあり、すごく辛い思いをされているはずなのに、写真をきれいにすることで、中には涙して喜ばれる方もいて、素晴らしい活動だと思いました。写真洗浄は難しそうではありますが、これを機に挑戦してみようと思いました。



社会学部 2年次生

実際に写真洗浄をさせていただいて、汚れが簡単に落ちることに驚きました。また、どこまで汚れを落とすか、写真の持ち主の気持ちを考えて作業することが大切だと思いました。

第3回テーマ「非行少年への支援について」

民間の立場で大阪における少年対策を推進し、少年が安心できる居場所を作り、非行から立ち直ることができるような取り組みの詳細や少年を取り巻く社会環境や現状についてお話しいただいた。

日 時 10月28日（火）12時20分～12時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

講 師 一般社団法人 大阪少年補導協会 池上 隆 氏

参加者数 11名



参加者に聞いてみた！

法学部 1年次生

成功体験を積み上げることが少年の更生につながることを知れて、若いからこそ犯罪をしてしまってもその後の人生にこれ以上陰を落とさないよう、大人が支えていく環境作りが大切だと気付きました。

経済学部 1年次生

実際に非行少年の数が増加傾向にあるのは驚きました。しかし、今回の講座を通して、少年への面談だけでなく体験活動や受験対策といった幅広い支援も行っていることを知ることができて良かったです。

第5回テーマ「子ども支援について（不登校児を対象としたフリースクール）」

民間初の無料のフリースクールとして、10～20代のみで運営されており、不登校児童生徒への支援や、居場所づくり、高校生以上の不登校課題や社会復帰についてお話しいただきました。

日 時 11月20日（木）12時20分～12時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

講 師 NPO法人BONPLACE 日野 航 氏

参加者数 19名



参加者に聞いてみた！

文学部 1年次生

不登校であるからといって子どものことを色眼鏡で見ず、その子一人ひとりに合った対応をするという考えが勉強になりました。子ども支援に関わらず、人間関係の本質をついた考え方だと思います。

社会学部 2年次生

いつの間にか、不登校の子を助けなければならないという固定概念に囚われ、学校に行くべきであることを強要してしまっている人は自分を含めて多くいることに気付かされました。

4 コミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」講座（全3回）

学生生活を充実させるコミュニケーション力の向上を目的として開講した。

当日は、テーマを「Enjoy!」として、ワーク等を通して楽しみながら講座を受講し、参加者全員が「ほめる達人」になることをめざして、「ほめる」とは「価値を発見して伝えること」と捉え、お世辞ではなく心の底から相手の良さを見出して伝える技術、自分と他者の違いを価値に変える方法やなりたいたい自分になるための考え方等について、さまざまなワークを通して実践的に学んだ。

日 時 6月25日（水）、7月2日（水）、7月9日（水）
16時20分～17時50分

場 所 千里山キャンパス第2学舎C204教室

講 師 日本ほめる達人協会 西村 貴好 氏

参加者数 延べ90名（第1回25名、第2回37名、第3回28名）

第1回

他者の魅力を言語化し、価値として相手に伝える力を学ぶことで、より前向きで建設的な人間関係の築き方について理解を深めた。また、「ほめる」ことは相手の行動や姿勢に潜む価値を見つけ出し、言葉として届ける行為であることを学んだ。

第2回

言行一致の大切さや、自身の言行不一致への気付きを得るとともに、相手の違いを価値として捉える視点を学んだ。さらに、ほめ達3S+1や聴き方のポイントを通して、言葉に頼らず相手を認める姿勢の重要性を実感した。

第3回

協力や対話を通じて他者との違いを力に変える姿勢を学び、価値を発見・創造する視点を得た。また、他者との比較ではなく自身の成長に目を向ける大切さや、ほめることで可能性を引き出す関わり的重要性も実感した。

参加者に聞いてみた！

文学部 4年次生

私自身が内気で口下手なので、講座を受けて良いコミュニケーションや人間関係を作りたいと思い参加しました。共感力のところは、私も相談する/される側両方経験があり、沈みに沈みきった時には感情理解してくれるのが一番救われていました。

先生の説明を聞いて、自分の経験も合わせり大変納得できました。

社会学部 1年次生

講師のお話の中で「向かい合ったら地獄、踏み出したら極楽」という言葉がとても共感できました。話し相手と向き合っている時間が長いほど苦しく感じるがありますが、先生のお話を聞いて考え方が変わりました。また、「本気なら恥ずかしくない」というお話がなるほどと思いました。

化学生命工学部 1年次生

自分のほめ言葉が人にうまく伝わらないと感じていたので参加しました。

ほめるということには、何か人に響きやすい特別な単語があるわけじゃなくて、目の前の人にどれだけ自分の思いを伝えられるかが大事で、何より、目の前の人の反応を伺うためにすることではないということを知ることができました。



(3) 他団体との連携事業

<連携事業一覧>

	事業名	連携先	掲載ページ
1	大阪家庭少年友の会 試験観察中の 非行少年への学習指導ボランティア	大阪家庭裁判所	P18
2	富士山森づくりボランティア	法政大学	P22
3	防災ワークショップ	明治大学	P22
4	献血呼びかけボランティア	大阪府赤十字血液センター	P10
5	写真洗浄ボランティア	おたがいさまプロジェクト	P10
6	令和OSAKA天の川伝説2025	一般社団法人おしてるなにわ	P11
7	琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える 環境ボランティアの未来2025～	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 法政大学・明治大学	P12
8	まちFUNまつり in 関西大学2025	特定非営利活動法人ママふぁん関西 関西大学カイザーズクラブ	P12
9	大阪マラソン2026給水ボランティア	大阪マラソンボランティアセンター	P13
10	飛鳥ハーフマラソン2026給食ボランティア	奈良県明日香村総合政策課	P13
11	淀川清掃	淀川河川事務所	P26
12	高槻景観美化ボランティア	NPO法人 花と緑のまちづくり高槻園芸クラブ	P27
13	関大×関学梅田クリーン大作戦	関西学院大学	P29
14	関西大学×法政大学スポーツゴミ拾い	法政大学	P31
15	吹田くわいボランティア	西農園・吹田市都市魅力部地域経済振興室	P31
16	大塚冒険王！	淀川河川事務所	P32
17	子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里	まちなかりビング北千里	P32
18	ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～	社会福祉法人 秀明会 特別養護老人ホームあす～る吹田	P34

大阪家庭少年友の会 試験観察中の非行少年への学習指導ボランティア

大阪家庭少年友の会（家事調停委員およびその経験者を主とする団体）が実施母体となり、2006年度から大阪家庭裁判所において行われている「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は、開始から20年目を迎える取り組みであり、一般的なボランティアと比べるとその性質上、活動の責任が重く、特別な配慮や知識が求められる。

一方で当活動を通じて得られる経験は、学生が真摯に取り組む大きな動機となっている。また、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の支援のもと、学生が活動しやすいようさまざまな工夫がなされている。

ボランティア登録及び活動までのプロセス

- ①ボランティアセンターが法学部（刑事法、親族・相続法など裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（刑法、刑事政策）、大学院心理学研究科などの教員へ学生紹介の協力依頼を行う。
- ②教員に推薦された学生のみ、登録手続きを行う。
- ③登録した学生へ大阪家庭裁判所調査官等による研修を実施する。
- ④少年の都合に合わせ活動計画を調査官とともに相談する。



年 度	登録者数
2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名
2016年度	13名
2017年度	19名
2018年度	28名
2019年度	20名
2020年度	0名
2021年度	6名
2022年度	9名
2023年度	23名
2024年度	25名
2025年度	13名

日 程	事 業 内 容
4月21日（月）	事前説明会（オンライン開催） <参加者数> 10名（本学学生6名、本学職員2名、友の会学生ボランティア委員2名） <内 容> 学習指導活動に興味がある学生を対象に、大阪家庭少年友の会より活動内容の説明を行った。
6月4日（水）	オリエンテーション（場所：大阪家庭裁判所8階 大会議室） <参加者数> 25名（本学学生10名、本学職員1名、友の会学生ボランティア委員12名、家庭裁判所調査官2名） <内 容> 調査官から試験観察制度、少年審判、学習指導等についての説明を受け、質疑応答を行った。その後、庁舎見学を行った。
9月16日（火）	施設見学会（場所：大阪府警察本部庁舎） <参加者数> 17名（本学学生6名、本学職員2名、友の会学生ボランティア委員9名） <内 容> 施設見学の後、大阪府警少年課の方による「おおさかの少年非行」に関するご講演をいただいた。
2月24日（火）	活動報告会（場所：SOHO-Cradle 4階会議室） <参加者数> 22名（本学学生6名、本学職員2名、友の会学生ボランティア委員12名、家庭裁判所調査官2名） <内 容> 学習指導等の実績のある学生から活動内容と感想を発表し、調査官を交えて意見交換を行った。

学習指導等を実施した学生ボランティアの感想

○法学部 3年次生（担当：15歳 女子、指導回数：2回）

学習支援活動として、少年に対し国語を中心とした支援を実施しました。初回は互いに緊張感がありましたが、雑談を交えながら関係構築を図り、徐々に安心して学習に取り組める環境づくりを意識しました。活動では、漢字の読み書きや文章作成、敬語の習得を目標に、基礎的な力の定着を支援しました。少年は提案した課題にも前向きに取り組み、宿題も継続して実施する姿が見られ、回を重ねるごとに誤答が減少するなど学習面での成長が見られました。後半には自ら話題を共有してくれる場面も増え、信頼関係の深まりとともに、学習への意欲向上にもつながったと感じています。

○法学部 4年次生（担当：19歳 男子、指導回数：3回）

交友活動として、計3回「お友達活動」を実施しました。初回は緊張感がある中、質問カード等を用いて関係構築を図り、趣味や日常の話題を通して徐々に信頼関係を深めました。活動では、少年の不安や悩みに対して共感と傾聴を大切に、安心して話せる環境づくりを意識しました。回を重ねるごとに自己表現が増え、他者とのコミュニケーションへの前向きな変化が見られました。アルバイトへの一歩を踏み出すなど、社会との接点を持つきっかけにもつながりました。

○政策創造学部 3年次生（担当：中学3年生 男子、指導回数：3回）

数学の学習支援として夏休みの宿題や基礎内容の復習を中心に実施しました。初回は緊張感が見られたため、学習に入る前に会話を通じて安心できる関係づくりを重視し、心理的ハードルを下げることを意識しました。指導では、一方的に教えるのではなく複数の解き方を提示し、本人が選択する過程を大切にすることで主体的な学習を促しました。また、必要に応じて小学校範囲まで遡り基礎の理解を支えつつ、集中力を保つ工夫も行いました。短期間での定着には至らなかったものの、自ら問題に向き合おうとする姿勢が見られるようになり、前向きな変化を感じることができました。

○社会学部 3年次生（担当：17歳 男子、指導回数：5回）

SNSワークでは、少年が自身のSNSの使い方を振り返る機会となり、個人情報漏洩等のリスクに対する問題意識を高めることができました。また、同世代に加え、調査官や大学生といった幅広い世代と意見交流を行うことで、少年の視野を広げ、危機管理に関する理解を深めることにつながりました。

○政策創造学部 3年次生、法学部 4年次生、法学部 4年次生（担当：高校1年生 男子、指導回数：11回）

大学進学をめざす少年に対し、3名体制で学習支援および関係構築を継続的に行いました。初回はトーキングゲームを通して価値観を共有し、互いに等身大の自己開示を行うことで安心できる関係性の構築に努めました。その後の学習では、通信高校の教材を用いた英語・数学に加え、本人が選択した秘書検定の学習にも取り組み、主体的に学ぶ姿勢が見られました。また、SNSワークでは自身の経験を踏まえながら今後の使い方を考えるなど、自ら言葉にして整理する様子が印象的でした。本活動を通して、基礎的な自信を醸成することに加え、将来を具体的に描き主体的に行動する力を支える関わり的重要性を実感しました。（政策創造学部 3年次生）

学習面だけでなく将来を見据えた支援を意識して指導を行いました。数学は基礎からの積み上げを重視し、英語は身近な内容から取り組むことで苦手意識の軽減を図りました。また、無理のないペースと雑談を交えた関わりにより、安心して学べる環境づくりに努めました。定期的な関わりが学習意欲の向上につながり、基礎を大切にしながら考える力を育む支援を行いました。活動を通して信頼関係を深めるとともに、今後も自立に向けた支援を継続していきたいと考えています。（法学部 4年次生）

学生ボランティア3名で学習指導およびSNSワークを通じたお友達活動を実施しました。学習指導では、学校教材を用いた英語・数学の復習や苦手単元の支援に加え、秘書検定の学習にも取り組み、本人の主体性や意欲的な姿勢が見られました。SNSワークでは、事例をもとに危険性や適切な行動について対話を重ね、考える力を育む関わりを行いました。また、大学生活やアルバイト経験を共有し

ながら、答えを示すのではなく共に考える姿勢を大切にしました。活動を通して信頼関係が深まり、少年が自ら話す機会も増えるなど前向きな変化が見られ、支援を通じて自身の成長も実感する貴重な機会となりました。(法学部 4年次生)

○政策創造学部 3年次生、社会学部 3年次生 (担当：16歳 男子、指導回数：6回)

少年に対し、2名体制で基礎学習とコミュニケーション支援を行いました。ひらがな・カタカナ・漢字といった基礎からの学び直しに対し、本人の努力を尊重しながら、認識のずれを丁寧に確認する対話を重視しました。日常会話を通じて関係性も深まり、安心して学習に向き合える環境づくりの重要性を実感しました。2025年度に担当した3件の活動を通して、支援とは知識を教えることにとどまらず、安心して挑戦できる土台を築くことであり、段階に応じた関わりと主体性を引き出す姿勢が重要であると学びました。今後も可能性を信じ、対話を重ねながら支援を続けていきたいと考えています。(政策創造学部 3年次生)

学習指導においては、①自己開示を通じた信頼関係の構築②結果だけでなく過程を承認する関わり③少年自身による目標設定の支援の3点を意識して取り組みました。雑談を含めたコミュニケーションを重ねることで安心して話せる関係性を築き、努力や工夫といった過程を肯定することで自己効力の向上を促しました。また、自ら目標を設定し達成する経験を積むことで、主体的に学ぶ姿勢の形成にもつながったと感じています。

約半年間の活動を通して、相手の背景や事情を理解し、尊重することの重要性を学びました。当初は関わりに対する不安もありましたが、対話を重ねる中で少年の素直さに触れ、他者と真摯に向き合うことで相互理解と尊重が生まれることを実感しました。(社会学部 3年次生)

○法学部 4年次生 (担当：中学2年生 男子、指導回数：3回)

2026年1月より計2回、小学校3～4年生範囲の算数の学習指導を実施しました。指導内容は、担当調査官および少年本人の意向を踏まえて計画し、本人の希望を尊重しながら段階的に学習を進めました。指導においては、まず自力で解く力を確認し、困難な場合には解き方の提示やヒントに留めることで、答えを導く主体が少年自身となるよう工夫し、自己肯定感の向上を意識しました。また、関わり方については、敬語とため口を使い分けることで、1人の人間としての尊重と親しみやすさの両立を図り、適切な距離感での信頼関係構築に努めました。活動を通して、学力面だけでなく対人関係や礼儀面における高いポテンシャルを感じるとともに、今後はその強みを生かし、自ら行動する力を引き出す支援を継続していきたいと考えています。

○法学部 3年次生 (担当：17歳 男子、指導回数：2回)

交友活動として、少年に対し「お友達活動」を中心とした支援を実施しました。活動では、調査官・少年・支援者の3名でテーマに沿って意見交換を行い、相手の意見を聞きながら自分の考えを伝えるコミュニケーションの練習に取り組みました。初回は活動の進め方に不安もありましたが、事前のアイスブレイクを通して緊張が和らぎ、安心して関係構築を図ることができました。活動を通じて、少年は自身の経験や感情を言葉で表現する場面が増え、主体的に意見を伝える姿が見られました。また、少年の価値観や考えに触れる中で、自身にとっても多くの学びを得る機会となりました。今後も模範となる関わりを意識しながら、継続的に支援に取り組んでいきたいと考えています。

家庭裁判所調査官からの総括コメント

2025年度は、1人の少年に対して、複数の活動メニューを実施していただいたり、複数の学生ボランティアに役割分担をして関わっていただいたりしました。どのケースでも、学生ボランティアの皆さんとの関わりを通じて、今後、少年が社会適応的な生活を送っていくために意味のある経験となったと思います。また、学生ボランティアの皆さんには、少年の長所といえる面を引き出していただきました。少年の健全育成に資する活動をしていただき、感謝を申し上げます。

2 関西大学・法政大学・明治大学 三大学連携協定に基づく事業

関西大学・法政大学・明治大学の3大学は、教育・研究活動のさらなる充実と質の向上を図るとともに、学術の発展および有為な人材の育成に寄与することを目的として、2017年に3大学連携協定を締結している。本協定に基づき、相互の連携・協力のもと、各大学が主催するボランティアプログラムや講座への学生参加を推進している。関西大学においては、琵琶湖の環境保全を目的としたボランティア活動を実施し、学生の実践的な学びの機会を提供している。

2-1 法政大学との連携事業 富士山森づくりボランティア

法政大学との連携・協力のもと、世界遺産である富士山で環境保全活動および自然体験活動を行うことにより、環境保全の意識向上を図ることを目的に実施した。当日は、法政大学学生と大学の垣根を超えた交流を楽しむことに加え、世界遺産である富士山の森林保護への貢献に寄与できる非常に有意義な活動であった。

日 時 5月25日（日）6時00分～20時00分

場 所 山梨県立富士山世界遺産センター（富士山ボランティアセンター）

富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合

参加者数 42名（本学学生8名、法政大学学生30名、本学職員1名、法政大学教職員3名）

参加者に聞いてみた！

政策創造学部 1年次生

富士山に行ってみたいと思っており、他大学とも交流できるということに興味があったので参加しました。法政大学とのディスカッションの中で交流を通して新しい観点を得ることができ、とても楽しかったです。実際に足を運んだことで、普通に過ごしては見られないような野生動物の被害やポイ捨てされたゴミなどリアルな光景をたくさん見ることができ、とてもいい経験になりました。



社会学部 1年次生

富士山に行ってみたいと思っており、森にも興味があったので参加しました。ゴミ拾いの時にレンジャーさん（受け入れ団体の方）がついてくれて、話をしてくれたので理解が深まりました。

2-2 明治大学主催講座

防災ワークショップ ～12万棟も燃える東京の地震火災から、どう命を守るか？～

明治大学主催の「防災ワークショップ～12万棟も燃える東京の地震火災から、どう命を守るか？～」にオンラインで参加した。

首都直下地震の被害想定では東京で全壊8万棟・焼失12万棟といわれており、大阪府の南海トラフ巨大地震における被害想定は東京の1.5倍にも及ぶとされている。在学中に大規模地震が発生した場合の対応を学び、自分自身と周囲の命を守るための行動を考えることを学ぶ機会となった。

日 時 12月17日（水）17時10分～18時50分

場 所 オンライン

講 師 明治大学 復興・危機管理研究所客員研究員〈研究・知財戦略機構研究推進員〉／
東京都立大学 名誉教授 中林 一樹 氏

参加者数 10名（本学学生3名、明治大学学生5名、本学職員1名、法政大学教職員1名）



参加者に聞いてみた！

今回の防災ワークショップを機に、自分の住んでいる自治体や通っている大学周辺の情報を集めて、災害発生時の対応を考えていこうと思いました。

3 人間健康学部による堺市との連携事業

堺キャンパスのある堺市と関西大学は、2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合させた連携事業を展開している。その中で、人間健康学部の学生は、堺市内の小中学校に出向き、児童生徒の運動促進を図る取り組みへの協力や地域の子どもたちを対象としたスポーツ企画の運営など、ボランティア活動を通して講義だけでは学べない経験を積み、社会人基礎力を養っている。

また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元するとともに、地域が抱える諸課題の解決に寄与している。

2025年度はボランティアとして以下の事業に参加した。

2025年度 堺市と関西大学との地域連携事業実績

学生参画事業

事業名	開催日	時間	内容	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場
「未来に向かう子どもの学び舎」一堺キャンパスを基盤とした新たな子ども支援プログラムの構築	4月27日 ほか11日	各回2時間	あたらしいあそびの場	127名 (214名)	堺キャンパス 体育館アリーナ
	4月19日 ほか7日	各回2時間	あたらしいあそびの場×運動あそびの場で つながるコミュニティ	65名 (95名)	堺キャンパス 体育館アリーナ
	9月13日 ほか7日	各回2～4時間	あたらしいあそびの場×ユニバーサルスポーツ	32名 (63名)	堺キャンパス 体育館アリーナ、格技・実習教室
	4月1日～ 3月31日 計133回	—	不登校生徒の居場所作り (エドシークが運営する不登校支援) 教室貸出	(延べ1,032名)	堺キャンパス SA402・SA405・SA409・SA502 教室、多目的室A、多目的室B、共同 研究室A、個別相談演習室B、個別相 談演習室C、グループワーク演習室、 格技・実習教室、体育館アリーナ、 エバーグリーン
	11月8日	9:00～18:00	不登校支援に関するイベント（青春祭）	12名 (54名)	堺キャンパス 多目的室B、エバーグリーン、食堂
	7月1日	14:10～16:10	講演会「竹中俊さんのお話」 やりたいことのかなえ方 ーサッカー少年が世界の貧困・環境問題の 活動家になるまで	(150名)	堺キャンパス SB302教室
	9月20日	10:00～18:00	体感学習交流会	(16名)	堺キャンパス SA502教室、多目的室C
地域におけるSDGs教育の場としての「エディブル・ユニバーシティ」の構築	7月2日 ほか10日	各回5～12時間	とようけのもり自然体験プログラム準備	23名	とようけのもり
	12月6日	11:00～20:00	自然体験キャンプ	14名 (10名)	
	12月10日	13:00～21:00	とようけのもり自然体験プログラム片付け	5名	
	4月28日 ほか3日	各回90分～5時間	「環境再生型農業としての協生農法に実践」 講演・実習指導 協生農法の理論と実践	延べ248名	堺キャンパス SA303教室、SA401教室、 中央広場、畑
令和7年度体力向上推進事業	4月18日	12:20～12:50	体力向上スクールサポーター説明会	10名	堺キャンパス 共同研究室B
	4月～ 2026年3月 計63回	—	体力向上スクールサポーター派遣	延べ5名	堺市立原山台中学校、堺市立鳳南小 学校、堺市立宮山台小学校、堺市立 新金岡東小学校、堺市立新檜尾台小 学校、堺市立原山ひかり小学校
	6月2日 ほか2日	15:00～16:30	堺市体力向上検討会議	学生の参加はなし (15名)	堺キャンパス 会議室E
	10月15日 10月16日	10:00～15:00	堺市立小学校連合運動会ボランティア	2名	堺市金岡公園 陸上競技場・野球場
	2月21日	9:30～16:30	堺市体育授業研究会実践報告会	学生の参加はなし (70名)	堺市立原山ひかり小学校

2010年度から開始した関西大学と堺市との地域連携は、本学の地域貢献協力資金により運営しており、2025年度で16年目を迎えた。

Ⅱ ボランティアセンター学生スタッフについて

1	ボランティアセンター学生スタッフの概要	p 25
2	ボランティアセンター学生スタッフ事業報告	
(1)	ボランティア体験ツアー	
	・ 関大クリーン大作戦 in 梅田	p 26
	・ 淀川清掃	p 26
	・ 高槻景観美化ボランティア	p 27
	・ 関大クリーン大作戦 in 高槻	p 27
	・ スポーツゴミ拾い	p 28
	・ 関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～	p 28
	・ 大阪夏の陣・冬の陣～大阪城周辺の清掃～	p 29
	・ 関大×関学 梅田クリーン大作戦	p 29
	・ ビーチクリーン in マーブルビーチ	p 30
	・ なんば大清掃	p 30
	・ 関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い	p 31
	・ 吹田くわいボランティア	p 31
	・ 淀川大塚地区魅力発見プロジェクト 大塚冒険王！	p 32
	・ 子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里	p 32
	・ 2025年度学園祭 遊んで学ぼう！環境問題アドベンチャー	p 33
	・ 子どもと文化に親しもう！日本昔遊び！	p 33
	・ ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～	p 34
(2)	広報活動	
	・ 新入生歓迎オリエンテーション	p 35
	・ ボランティアフェスティバル2025	p 35
	・ ボランティアセンター機関紙「Volury」作成・配布	p 35
(3)	その他の活動	
	・ ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿	p 36
3	学生スタッフ代表からのメッセージ	p 37



I ボランティアセンター学生スタッフの概要

ボランティアセンター学生スタッフは、「ボランティアに関心があるものの一歩踏み出せない」という関大生に対して、初めてのボランティア参加の一歩目を後押しすることを目的に、関大生が参加しやすいボランティアプログラム「ボランティア体験ツアー」の企画・運営、参加したいボランティアを見つけるお手伝いをする「ボランティア・コーディネート」を行っている。また、自身の活動やボランティアセンターの活動を積極的に周知する広報活動にも日々取り組んでいる。

ボランティア体験ツアー一覧

分 野	事 業 名	掲載ページ
環境保全	関大クリーン大作戦 in 梅田	P26
	淀川清掃	P26
	高槻景観美化ボランティア	P27
	関大クリーン大作戦 in 高槻	P27
	スポーツゴミ拾い	P28
	関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～	P28
	大阪夏の陣・冬の陣～大阪城周辺の清掃～	P29
	関大×関学 梅田クリーン大作戦	P29
	ビーチクリーン in マーブルビーチ	P30
	なんば大清掃	P30
	関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い	P31
地域活性化	吹田くわいボランティア	P31
	淀川大塚地区魅力発見プロジェクト 大塚冒険王！	P32
子ども	子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里	P32
	2025年度学園祭 遊んで学ぼう！環境問題アドベンチャー	P33
	子どもと文化に親しもう！日本昔遊び！	P33
高齢者福祉	ようこそ！関大サロンへ～異世代交流～	P34

2 ボランティアセンター学生スタッフ事業報告

(1) ボランティア体験ツアー

1 関大クリーン大作戦 in 梅田

梅田キャンパス周辺を通行する人々が気持ちよく過ごせるように街中の清掃活動を通して、参加する学生にボランティアのやりがいや楽しさを感じてもらうことを目的として実施した。

日 時 4月13日(日) 9時30分～12時30分

6月8日(日)、11月16日(日)、12月7日(日) いずれも10時00分～12時00分

場 所 関西大学梅田キャンパス周辺

参加者数 延べ50名(学生スタッフ22名、関大生28名)

参加者の声

- ・ 新入生ガイダンスで受け取った冊子の中にボランティア募集チラシが折り込まれていて、参加してみようと思いました。実際に参加するとタバコの吸い殻が多くてびっくりしました。活動中に街の人に感謝の言葉を貰えて嬉しかったです。(システム理工、1年次生)
- ・ 意識して街中を見ると思ったよりゴミが多くて驚きました。落ちている頻度が多いタバコの吸い殻やあまり見ないようなゴミが落ちている事があり、街に色んなゴミが落ちている事を実感できました。そうしたゴミを拾う事でやりがいや、活動終了時は達成感を得ることもできたのでとても良かったです。(情・2年次生)



2 淀川清掃

学生スタッフの継続した活動の功績を認めていただき、2011年に国土交通省近畿地方整備局から「淀川サポーター」として認定されて活動している。淀川河川敷のゴミ拾いをする事で、大阪湾へのゴミの流れ込みを防ぎ、淀川の水質や景観を保護することを目的に、ゴミ拾いという気軽に参加できる点を活かして、関大生にボランティア活動の魅力を広める機会として実施した。

日 時 4月27日(日)、6月15日(日)、10月12日(日)、12月21日(日)※雨天により中止
いずれも10時00分～12時00分

場 所 阪神福駅近く淀川河川敷

参加者数 延べ19名(学生スタッフ14名、関大生5名)

参加者の声

- ・ マイクロプラスチックや環境問題に関心があり、まず身近で始められることが淀川の清掃活動だと思いました。学生スタッフの雰囲気が柔らかくて、楽しく清掃活動をすることができました。緊張していたのでアイスブレイクで交流できてよかったです。(法・1年次生)
- ・ 元々ボランティアに参加してみたいと考えていましたが、今回の活動は参加しやすいと思ったので参加しました。ゴミがなくなっていく達成感がありました。(法・4年次生)



3 高槻景観美化ボランティア

自然と共生する「花と緑のまちづくり」に寄与されている高槻市のNPO法人「花と緑のまちづくり高槻景観園芸クラブ」との連携事業として、関大生に環境美化、地域交流の必要性を学んでもらうことを目的として実施した。

日 時 5月11日(日)、11月16日(日) 9時30分～11時00分

場 所 高槻市・高槻城公園

参加者数 延べ13名(学生スタッフ9名、関大生4名)

- 参加者の声**
- ・普段何気なく見ている公共の場にある花壇にどんな想いが込められているのかわかることができて良かったです。また自然に触れることができ、落ち着くことができました。(法・1年次生)
 - ・自然とのふれあいと地域貢献のため参加しました。普段関わることのない地域の方や他学年・他学部の関大生と交流ができて楽しかったです。(政策・4年次生)



4 関大クリーン大作戦 in 高槻

普段利用している駅やキャンパス周辺を清掃し、景観を保護することで、学生や地域の方々が気持ちよく利用できるようにすることを目的に、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパスに通う学生も気軽に参加できるボランティア活動の機会として実施した。

日 時 5月21日(水) 14時00分～15時30分
11月26日(水) 13時00分～14時30分

場 所 阪急高槻市駅周辺

参加者数 延べ14名(学生スタッフ10名、関大生4名)

- 参加者の声**
- ・清掃活動中にたくさん話ができて、一緒に活動する関大生は優しい方ばかりで楽しかったです。(法・3年次生)
 - ・活動に興味があり参加しました。学生スタッフが積極的に話してくださり、先輩とも知り合うことができました。(社・1年次生)



5 スポーツゴミ拾い

清掃活動にスポーツ要素を加えることで、楽しみながらゴミを拾い、ボランティアのやりがいと楽しさを同時に感じてもらうとともに、参加者同士のコミュニケーションを促し、学生間のつながりを生む機会として実施した。

日 時 6月7日(土) 13時00分～15時00分

場 所 関西大学千里山キャンパス周辺

参加者数 13名(学生スタッフ4名、関大生9名)

- 参加者の声**
- ・普段から気になっていたタバコなど道端に転がっているゴミを、今日は直接解決することができてとてもスッキリしました。点数化することで、たくさんゴミを集められたという達成感が感じられやすかったです。(社・1年次生)
 - ・インスタグラムの投稿を見て、スポーツと清掃活動を掛け合せていて興味が湧き、参加しました。先輩たちと沢山話せたり、他学部の学生たちと交流できたりと、とても楽しかったです。いつも通っている道を清掃することで気付けることが多かったです。(化学生命・1年次生)



6 関大クリーン大作戦 ～千里山キャンパス周辺の清掃～

千里山キャンパス周辺のゴミを拾い、大学周辺の景観を保護することを目的として実施した。お昼休みや空きコマに参加してもらえる企画にすることで、ボランティア活動が初めての学生にも気軽に参加しやすく、参加者同士でのコミュニケーションを通して、ボランティアのやりがいや楽しさを感じてもらえる機会とした。

日 時 6月17日(火) 10時40分～12時10分

11月25日(火)、12月12日(金) いずれも13時00分～14時30分

場 所 関西大学千里山キャンパス周辺

参加者数 延べ22名(学生スタッフ12名、関大生10名)

- 参加者の声**
- ・普段、ゴミが落ちているのをよく見かけてはいるものの、拾ったことはありませんでした。しかし、実際にゴミ拾いをすると想像以上にゴミが落ちており、ゴミ拾いの大切さを知りました。また、ゴミ拾いをしていると感謝してくださる方が多くてとても気持ち良かったです。(BDS・1年次生)
 - ・想像していたよりもゴミがたくさん落ちていたので、やりがいを感じられました。地域の人や警備員の方と挨拶を交わして人の温かさを感じることができました。(政策・1年次生)



7 大阪夏の陣・冬の陣 ～大阪城周辺の清掃～

「2023ボランティア新企画募集」において、ベストアイデア賞を受賞したボランティア企画として、清掃活動をしている。大阪のシンボルでもあり、海外からの観光客も多い大阪城周辺での清掃活動を行うことで、ポイ捨て防止の啓発を図ることを目的として実施した。

日 時 夏の陣：7月6日（日）10時00分～12時00分
冬の陣：12月14日（日）10時00分～12時00分

場 所 大阪城周辺

参加者数 延べ19名（学生スタッフ14名、関大生5名）

参加者の声

- ・以前からボランティアに興味があったのですが、実際に参加して普段関わる機会の少ない先輩や他学部の人と関わることができて良かったです。（政策・1年次生）
- ・ゴミを拾うことで気分が良くなりました。（法・4年次生）



8 関大×関学 梅田クリーン大作戦

スポーツを中心とした伝統的な対抗戦「関関戦」においても関わりのある関西学院大学とそのつながりを生かして、清掃活動を行うことで、両大学の体育会所属学生以外の学生も交流できる機会を作る。また、両大学のキャンパスがある大阪梅田駅周辺の環境美化に努めることで、環境問題に対する意識の向上を目的として実施した。

日 時 11月23日（日）9時30分～12時30分

場 所 関西大学梅田キャンパス周辺

参加者数 22名（学生スタッフ6名、関大生3名、関西学院大学学生13名）

参加者の声

- ・説明が分かりやすく、安心して活動ができました。（法・3年次生）
- ・新たに関大生や初めて知り合った関学生と仲良くなれたうえ、楽しくボランティア活動も交流もできました。（関西学院大学 経・2年次生）



9 ビーチクリーン in マーブルビーチ

ビーチでの清掃を通して、海洋ゴミ問題の現状を理解し、海の生き物を守り、海を綺麗に保つことに繋げる。また、ゴミ拾いを通して参加者同士で交流することで、ボランティアの魅力を伝える機会とする。

日 時 12月7日（日）13時00分～15時30分

場 所 りんくう公園マーブルビーチ

参加者数 9名（学生スタッフ7名、関大生2名）

参加者の声 ・みんなの力でビーチを綺麗に掃除して、達成感と満足感が高かったです。学生スタッフといろいろ話し合っ、楽しかったです。（大学院外国語教育学研究科・1年次生）



10 なんば大清掃

今回、初めての試みとして、大阪を代表する繁華街である難波の道頓堀周辺エリアを清掃を行った。大阪府を代表とする観光地の景観を守り、環境保全に貢献することを目的とし、人通りの多い観光地で行うことにより、ボランティア活動の認知度向上やポイ捨て防止の啓発に繋げる。

日 時 2月14日（土）8時15分～10時30分

場 所 道頓堀（戎橋）周辺

参加者数 139名（学生スタッフ36名、体育会学生77名、関大生8名、ミズノ株式会社関係者8名、校友1名、教職員9名）

参加者の声 ・思った以上にたくさんのゴミがありましたが、その分やりがいを感じて活動することができました。そんな中、通行人の方が挨拶してくださり、人の温かみを感じられて嬉しかったです。（政策・1年次生）
・捨てられて間もないゴミがたくさん落ちており、当たり前のようにゴミを捨てる人がいて残念に思う一方で、ゴミを拾っていると「ありがとう」と声をかけてくれる人もいて、実際に人から感謝される嬉しさを学ぶことができました。（社・3年次生）



11 関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い

ゴミ拾いにスポーツ要素をかけ合わせることで、ゴミ拾いをスポーツ感覚で楽しみ、ボランティアへの興味を引き出す。また、法政大学の学生との交流や、参加者同士で協力して取り組むことを通じて、連帯感や達成感といったボランティアの魅力を感じてもらう機会にすることを目的として、Zoomを用いて実施した。

日 時 3月12日（木）13時00分～16時00分

場 所 関西大学梅田キャンパス周辺

参加者数 25名（学生スタッフ8名、関大生3名、法政大学学生14名）

参加者の声

- ・ボランティア活動に興味があり参加しました。散歩のような感じがして、ゴミ拾いも思っていたより楽しかったですし、景品も出て嬉しかったです。（法・1年次生）
- ・もともと、清掃ボランティア活動が好きでしたが、今回このように他の大学の学生と活動できるのは面白く、ゴミ拾いの競争もあり楽しかったです。（法政大学 留学生・4年次生）



12 吹田くわいボランティア

若者の農業への関心の低下を背景に、吹田市の特産品である吹田くわいの認知度も低いという現状があり、吹田くわいの植え付けから収穫まで1年を通した活動を通じて、人々の生活を支える農業を身近に感じられる機会を提供することを目的として実施した。

日 時 植え付け：6月23日（月）13時00分～15時00分

収 穫：12月8日（月）・10日（水）・15（月）・20日（土）9時30分～12時00分

場 所 吹田市・西農園（協力：吹田市都市魅力部・地域経済振興室）

参加者数 延べ28名（学生スタッフ19名、関大生9名）

参加者の声

- ・農業系のボランティアに興味があり、全く知らなかったくわいについて少し知れて良かったです。今回の活動を通して、泥から足が抜けないうなど、農作業の大変さを知ったので、感謝の気持ちを持とうと思いました。（法・1年次生）
- ・田んぼに入り吹田くわいを収穫することは初めてで、新たな学びを多く得ることができました。実際に体験することで、農家の方の大変さや食べ物のありがたさを強く実感することができ、参加できてよかったなと思いました。（社・3年次生）



13 淀川大塚地区魅力発見プロジェクト 大塚冒険王！

淀川大塚地区魅力発見プロジェクトの一環として、大塚地区について地域住民の方や本学学生に知ってもらうとともに、淀川及び大塚地区の環境や歴史について親しみや関心を持ってもらうことで、河川公園の利用を促し、地域の活性化を図ることを目的として実施した。

野草迷路の図案作成やクイズの作成、当日はモルックや輪投げなどのミニゲームを運営し、70名以上の来場があった。

日 時 2月28日（土）13時00分～16時00分

場 所 高槻市・淀川河川公園 大塚地区

参加者数 17名（学生スタッフ15名、関大生2名）

参加者の声

- ・たくさんの参加者とコミュニケーションを取りながら活動ができてよかったです。（情・2年次生）
- ・久々の参加で、勘を取り戻しながら活動することができました。（政策・4年次生）



14 子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里

2022年度にボランティア新企画募集のベストアイデア賞を獲得しスタートして以降、定期的に活動を実施している。遊びを通じて子どもたちにSDGsについて学ぶ機会の提供を目的として、ボードゲームやカードゲームを使用し、楽しく遊びながら実施した。

日 時 5月12日（月）、6月27日（金）、7月8日（火）、12月17日（水）・18日（木）、3月11日（水）
いずれも16時00分～18時00分

3月28日（土）10時00分～12時00分

3月30日（月）15時00分～17時00分

場 所 吹田市・まちなかりビング北千里

参加者数 延べ54名（学生スタッフ31名、関大生23名）

参加者の声

- ・久しぶりに小学生たちと触れ合って新鮮でした。私自身も小さい頃同じようなことをしていたことを思い出して懐かしい気持ちになりました。初めは子どもの遊びの輪に中々入れなかったが、学生スタッフの方が声をかけてくださったおかげで参加できました。（文・1年次生）
- ・子どもたちと関われる貴重な機会に、楽しい遊びを一緒にたくさんできて、私自身が楽しめました。施設のスタッフの方々も参加しやすい雰囲気を作ってくださいました。（環境都市・1年次生）



15 2025年度学園祭 遊んで学ぼう！環境問題アドベンチャー

楽しく遊びながら環境問題について学ぶことができるブースを通して、子どもたちに環境問題に対して興味・関心を持ってもらう。当日は、「クイズ」、「バズーカ作り&ゴミ分別ゲーム」、「塗り絵」の3つのブースを展開し、約400名もの来場者に楽しい時間を提供することができた。

日 時 11月1日（土）12時00分～16時00分

11月2日（日）、3日（月）、4日（火）いずれも10時00分～16時00分

場 所 関西大学千里山キャンパス凜風館1階学生ラウンジ

参加者数 延べ78名（学生スタッフ70名、関大生8名）

参加者の声

- ・子どもたちと接する機会はなかなかないので、とてもいい機会になりました。（化学生命・1年次生）
- ・子どもたちが楽しんでくれて嬉しかったです。（商・1年次生）



16 子どもと文化に親しもう！日本昔遊び！

昔遊びには、日本の風土や人々の知恵が詰まっている。昔遊びを通して、子どもたちに楽しみながら自然と文化に親しんでもらい、その精神を肌で感じてもらうこと。また、参加学生には日本文化を通して子どもと接することでコミュニケーション力や人に文化を伝える力を身につける機会を提供することを目的として実施した。当日は「花いちもんめ」や凧揚げ、凧作りなどの昔遊びを楽しんだ。

日 時 3月26日（木）13時00分～15時00分

場 所 まちなかりビング北千里

参加者数 7名（学生スタッフ6名、関大生1名）

参加者の声

- ・普段、子どもたちと交流する機会がなかなか無いため、勉強になり、楽しかったです。（社・3年次生）



17 ようこそ! 関大サロンへ～異世代交流～

普段関わりの少ない高齢者と交流することで、学生が高齢者福祉に興味を持つきっかけをつくる。
また、高齢者や施設職員との関わりの中で、接し方を学び、コミュニケーションの機会を増やすことを目的として実施した。

日 時 7月9日(水)、12月26日(金)、2月13日(金)

いずれも13時00分～15時00分

場 所 吹田市・社会福祉法人秀明会「特別養護老人ホーム あす～る吹田」

参加者数 延べ20名(学生スタッフ18名、関大生2名)

参加者の声 ・いろいろな人と関わりたいと思って参加しました。利用者の方とのお話や、レクリエーションがすごく楽しかったです。もっと積極的に関わりに行っても良かったのかなと少し後悔しています。(商・1年次生)



(2) 広報活動

関大生にボランティア活動に興味を持ってもらうことを目的に、体験ツアーの紹介などの広報活動を積極的に行っている。

1 新入生歓迎オリエンテーション

関西大学ボランティアセンター学生スタッフは、本学学生にボランティアの魅力を広めるために、ボランティアの企画、運営を行っている。団体の継続のため、新しい学生スタッフを募集することを目的として実施した。当日は、ブースを訪れた関大生に学生スタッフの活動について説明を行った。

日 時 4月2日(水)、3日(木)、4日(金)

11時00分～16時00分

場 所 千里山キャンパス ブース87



2 ボランティアフェスティバル2025

ボランティア団体の認知度を向上させることを目的として、6つの学内ボランティア団体と学生スタッフがブースを出展し、ボランティアに興味関心がある学生に対して、団体の活動について説明を行った。

日 時 4月15日(火)、16日(水)、17日(木)

12時00分～12時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階学生ラウンジ



3 ボランティアセンター機関誌「Volury」作成・配布

関大生にボランティアの魅力を広めることを目的に、ボランティアセンターの機関紙「Volury」を作成・配布している。ボランティア体験ツアー等の活動紹介やボランティアに関わるテーマについて掲載し、完成後は「ボラリー WEEK」として昼休みに配布し、ボランティアセンターの認知度向上とボランティア事業への参加促進を図っている。

Volury Vol.50 (2025年9月発行)

2007年(平成9年)1月からボラリーを発行し続け、記念すべき創刊50号として、「Voluryこれまでの歩み」と題してこれまでに掲載した内容を紹介した。

Volury Vol.51 (2026年3月発行)

新入生向けにボランティアを始めたきっかけや学生スタッフが企画・運営している「ボランティア体験ツアー」の紹介を行った。



Volury Vol.50



Volury Vol.51



ボラリー配布の様子

(3) その他の活動

Ⅰ ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿

学生スタッフとして活動するうえで必要な基礎知識の習得と実践的なスキルの向上を目的として年2回実施している。

夏合宿

避難所運営ゲーム(HUG)を通して、災害時の状況を疑似体験しながら、仲間と協力して課題を解決していく力を養い、今後のボランティア活動の基盤となるチームワークを強化する。また、Canvaの活用方法を学び、広報物の作成能力を向上させる機会とした。

日 時 9月18日(木) 9時30分～18時00分

9月19日(金) 9時30分～12時30分

場 所 千里山キャンパス第2学舎C401教室・東体育館

内 容 ・避難所運営ゲーム(HUG)

・大運動会

・Canvaポスター作成

参加者数 学生スタッフ35名、教職員7名



春合宿

ボランティア体験ツアーの実施目的・学生スタッフの役割を再認識し、年間を通してより充実した1年間の体験ツアーを計画する機会とした。

日 時 3月3日(火) 9時30分～17時00分

場 所 千里山キャンパス第4学舎4号館4001教室

内 容 ・2025年度体験ツアー振り返り

・ボランティアセンター学生スタッフの活動目的および役割の再確認

・2026年度ボランティア体験ツアー年間計画の作成および目標設定、プレゼンテーション

参加者数 学生スタッフ35名、教職員9名



3 学生スタッフ代表 からのメッセージ



塚元 琳太郎

Tsukamoto Rintaro

社会学部 2年次生



ボランティアを始めたきっかけ

私がボランティアを始めたきっかけは、中学生の頃に修学旅行先の熊本県でお世話になった方々が豪雨災害で被災したことを聞き、地元のスーパーマーケットで募金活動を行ったことです。遠く離れている顔も見たことのない人のために募金してくださる地元の方々の温かさを知り、ボランティア活動を通して人とのつながりを実感しました。

大学生になって時間の余裕ができたため、ボランティアを本格的にやってみようと思いました！

ボランティアの魅力とは

私にとってボランティアの一番の魅力は、「普段出会わないような人と出会えること」です。私たち学生スタッフが実施している「ボランティア体験ツアー」では、学部やキャンパスが異なる学生だけではなく、子どもや高齢の方、自治体の方など多種多様な方との出会いがあります。普段友人同士ではしないような会話や新しい発見をすることができます。私が参加したボランティア活動で特に印象に残っていることは、被災地支援として能登半島に2泊3日で行ったことです。ほぼ喋ったことのない学生14名で協力して支援活動をすることで、2日目の夜には午前3時頃まで喋るほど仲良くなることができました。この活動の後も交流が続いており、大切な友人になりました。

私はこの経験から初めて出会う人とのボランティア活動でも、お互いに協力して取り組むことで自然と仲良くなって、活動以外でも交流がある関係にまで発展することもあると実感しました。もしかしたらこれから、あなたが参加するボランティア活動の参加者の中に、親友になる人や、生涯添い遂げるような人に出会えるかもしれません！



関大生のみなさんへ

ボランティア活動は、高尚なものという認識の方が多いと思います。

しかし、私は活動に参加する動機は社会貢献がしたいからではなく、空きコマの暇つぶしや、新しく挑戦してみたいなど自分のためでもいいと思います。「自分のため」にボランティアをして、結果「誰かのため」になっている、それが本来あるべき姿だと私は思います。ぜひ、あなたもそんなボランティア活動をやってみませんか？

Ⅲ 学内ボランティア団体について

1 学内ボランティア団体の概要

- (1) 学内ボランティア団体の概要 p 39
- (2) 学内ボランティア団体の支援 p 39

2 学内ボランティア団体の紹介

- ・ 同好会 児童文化研究サークル「あかとんぼ」..... p 40
- ・ 同好会 児童文化実践サークル「うぷ」..... p 41
- ・ 同好会 ボランティアサークル チャレンジャー p 42
- ・ 文化会 ユネスコ研究部 p 43
- ・ 準登録団体 学生団体KUMC p 44
- ・ 準登録団体 WEVO p 45



学内ボランティア団体の概要

(1) 学内ボランティア団体の概要

本学には、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体へのボランティア依頼が多数寄せられる。

6つの学内ボランティア団体は、学童保育等の子どもを対象とした活動、障がい者福祉、防災教育、高齢者を対象とした活動など、団体ごとに目的をもってさまざまな活動に取り組んでいる。

<学内ボランティア団体一覧>

	団 体 名	部員数	紹介ページ
同好会	児童文化研究サークル「あかとんぼ」	78名	P40
	児童文化実践サークル「うぷ」	26名	P41
	ボランティアサークル チャレンジャー	63名	P42
文化会	ユネスコ研究部	47名	P43
準登録団体	学生団体KUMC	676名	P44
	WEVO	69名	P45

※部員数は2026年3月時点

(2) 学内ボランティア団体の支援

ア ボランティア活動保険費用の助成

ボランティアセンターでは、学内ボランティア団体およびボランティアセンター学生スタッフに対して、活動の安心・安全を確保するために、「ボランティア活動保険」への加入を奨励している。

大学から地域貢献等のボランティア活動を依頼することもあり、学生の経済的負担を軽減するため、保険加入相当額を助成している。

イ ボランティアフェスティバルの開催（部員募集機会の提供）

関大生に学内ボランティア団体およびボランティアセンター学生スタッフのことを知ってもらうと共に、各団体の新メンバー募集を目的として、2008年度から実施し、2025年度で18回目となる。当日は、大型モニターを使用した広報のほか、6つのボランティア団体及びボランティアセンター学生スタッフが活動写真などで装飾したブースやパネル展示を出展し、各団体が取り組んでいる日々の活動について紹介した。

本イベントを通して、関大生に学内ボランティア団体について知ってもらうだけでなく、団体同士で交流を図ることができ、団体同士の繋がりという面でも有意義な時間を過ごすことができた。

ウ 学外助成金の申請支援

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動を振興するための助成事業を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成事業について学内ボランティア団体に情報提供を行った上で推薦し、助成が受けられるように支援している。2025年度は以下の通り助成を受けた。

助成団体：一般財団法人学生サポートセンター

助成事業：令和7年度 学生ボランティア団体助成事業

「学生ボランティア団体活動レポート募集」

推薦団体：児童文化研究サークルあかとんぼ

助 成 額：100,000円



イ ボランティアフェスティバルの様子



ウ 学外助成を受けたあかとんぼの活動写真

同好会

児童文化研究サークル あかとんぼ



活動内容

小学校の学童保育への訪問や子どもに関する地域行事への参加を通し、子どもたちと交流することで「いつもとは違う有意義な体験」を子どもたちに楽しんでもらうことを目的に活動している。

主な活動として、吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、紙芝居・人形劇を披露したり、屋外で子どもたちと一緒に遊んだりする活動を行っている。

またその他にも、児童厚生施設や商業施設、地域組織などからウェブサイト・SNS・電子メールを通じて依頼を受け、多種多様な公演活動に取り組み、より多くの子どもたちに楽しんでもらうことをめざしている。

代表者の声

児童文化研究サークル「あかとんぼ」は、学童訪問を中心とした子ども支援活動を通して、多くの子どもたちに笑顔をお届け続けています。私たちは「ただ遊んで終わる」のではなく、子どもたち一人ひとりが安心・安全に過ごせる環境づくりを大切に、「また会いたい!」と思ってもらえるような心のよりどころとなる存在をめざして日々活動しています。

また、2026年度には部員数が100名を超え、サークル内の活気やつながりもさらに広がっています。仲間とともに学び合い、支え合いながら、「子どもたちを楽しませたい」という想いを形にできることが、「あかとんぼ」最大の魅力です。これからも、関わるすべての人が笑顔になれる団体をめざし、これまで培ってきた経験や知見を生かしながら、温かく魅力ある活動を続けていきたいと思っています。

代表

NAKAJIMA RYUNOSUKE

中嶋 隆之介

文学部
2年次生



2025年度の活動報告

2025年度は、年間を通じて10箇所の放課後児童クラブ（学童）を訪問しました。放課後児童クラブによって異なる特性を持たれているため、活動場所に合わせた子どもとの接し方・関わり方が求められ、多くの経験を積むことができました。

池田市にある五月山児童文化センターでは、11回のイベントを行いました。8月の「おばけ祭り」や2月の「節分まつり」といった季節ごとのイベントや、あかとんぼ所属学生が企画する「あかとんぼカーニバル」など、多種多様な活動を通じて子どもたちと交流を行いました。

また、学外団体からのご依頼で、人形劇や紙芝居の公演活動、子ども食堂、学習支援ボランティアなども実施し、より多くの子どもたちに楽しんでもらえるようさまざまな活動に注力しました。



日頃の様子



節分祭り



人形劇の練習

同好会

児童文化実践サークル

うぷ



活動内容

吹田市内の学童保育学級に通っている小学校1年生から4年生を対象とし、子どもたちと年齢の近い大学生が関わることで、普段接している指導員の方が見ることのない一面を引き出しながら、子どもの成長に携わること。また、子どもたちに“楽しい”を共有することを目的とする。

吹田市内の小学校を放課後に訪問し、子どもたちとの遊びや宿題支援を通して、居場所づくりや見守り活動に取り組む。また自分たちで考えたプログラムとして紙芝居やペープサート等、毎週違うプログラムを組み立てて、子どもたちに“楽しい”を届けている。

代表者の声

私たちは放課後に小学校を訪問し、学童保育の子どもたちとレクリエーションを行っています。私は他の大学生や先生方と協力しながら活動を進めることで、チームワークの大切さを再確認しました。活動で成功を収めるには、円滑なコミュニケーションが重要なので、信頼関係を構築する為にメンバーはお互いをオリジナルのニックネームで呼び合っています。ニックネームで呼び合うことで子どもたちに名前を覚えて貰いやすくなり、先輩と後輩の壁を無くすことにもつながっています。

また、子どもたちが楽しみながら新しいことを学び、成長していく姿を見ることができるので大きなやりがいを感じます。私は活動の中で子どもたちの元気さにふれて、多くの刺激を受け、子ども時代に戻ったかのように楽しむことができました。その一方で、大人として、自分が提供する経験や知識が子どもたちの将来に影響を与える可能性があることに、責任感と喜びを感じています。私は子どもたちを楽しませることと同時に自分自身も楽しめることがうぷの最大の魅力だと考えています！

代表

HAYASHI KOICHIRO

林 功一郎

総合情報学部
3年生



2025年度の活動報告

・学童保育

吹田市内の小学校を訪問し、学童保育学級にて外遊びや紙芝居といったレクリエーションを行いました。普段の学童保育と違う非日常感に子供たちは大興奮で、どの小学校でも活動は終始大盛り上がりです。うぷのメインとなる活動でもあり、子どもたちの楽しい思い出を作ると同時にメンバーの大学生の成長にも繋がっています。

・児童館イベント

ボランティア依頼を受けて児童館や文化センターを訪問し、レクリエーションやイベント開催への協力をさせていただきました。普段の活動と同様の遊びや紙芝居の他、節分の豆まきやお祭りなどの季節のイベントにも運営として参加しています。



地域連携学生フォーラム



学園祭



夏祭り

同好会 ボランティアサークル チャレンジャー



活動内容

主に「障がい者福祉」の活動を行っている。障がいのある方のサポートを行い、社会貢献につなげるとともに、普段滅多に味わうことのない珍しい経験を通して自分自身の成長につなげることを目的として活動している。

主な活動は、月一度ずつ行っている「ゆうゆう会」、「風船バレー」であり、「ゆうゆう会」ではさまざまな障がいをお持ちの方の外出をサポートし、レクリエーションと一緒に楽しむ。

「風船バレー」では、風船バレーチームと一緒に練習するボランティアを行う。年に数回行う「鋏の会」では視覚特別支援学校の方のサポートを行っている。「障がい者福祉」以外にも、子どもたちと協力して、ダンボールで大きな街を作る「まちつく」や学園祭への出店も計画している。

代表者の声

障がい福祉のボランティアは性質上、最初は多くの方が未経験で、緊張や戸惑いがあるものです。しかし今年度は、定期活動で顔を合わせるうちにメンバー同士の仲が深まり、その安心感から新入生も回を重ねるごとに障がいのある方々と自然に関われるようになりました。今後は文化祭などの行事もさらに充実させ、サークルの一体感を高めていきたいです。

また、メンバー同士の信頼関係を土台に、気軽な楽しさだけでなく、障がい福祉に対する理解を深める機会を設け、一步進んだサポートの視点についても共に学んでいきたいと考えます。それがメンバー自身の確かな成長につながり、より質の高いサポートを生み出すと考えます。2026年度はさらにメンバー同士の仲を深めつつ、共に学び合える場所にしていきます。

代表

KINGO YUKA

近郷 友香

社会学部
2年次生



2025年度の活動報告

2025年度は、定期活動および学外イベントにおいて以下の通り活動しました。

定期活動の「ゆうゆう会」では、万博記念公園、天王寺動物園、大阪城公園への外出やバスツアー等を行い、障がい者の方との季節に応じたレクリエーション交流を重ねました。

同じく定期活動の「風船バレー」では、ユニバーサルスポーツの競技である風船バレーの練習を通じてチームとの親交を深め、出場した大会ではシルバークラスで見事優勝を果たしました。

「鋏の会」は例年より活動数が少なかったものの、他大学の学生とのクリスマス会を実施したり、一緒に活動するのが数年振りとなる団体とも滋賀県へのバスツアーを行いました。

また、8月には大阪で開催するイベント「まちつく」に参加し、子どもたちや保護者の方とチームを組んで街づくりを行ったほか、11月の学園祭では模擬店を出店しました。



まちつく



風船バレー



学園祭

文化会

ユネスコ研究部



活動内容

ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子どもたちの交流を中心としたボランティア活動を行っている。

子どもたちに普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさや集団行動の大切さを学んでもらうことを目的としている。また、子どもたちとの交流により、部員が行動力や責任感を培い、新たな成長につなげていくことも目的としている。

活動内容としては、吹田市の小学生を対象に月に2回子どもたちと交流するボランティア活動を行っている。この活動を通して、子どもたちだけでなく大学生も共に学び、共に成長できるような活動をめざしている。

代表者の声

今年度の活動では、子どもたちだけでなく所属部員も楽しみながら活動できたので、良い1年になったと感じています。2024年度に比べると新入部員が増え、初の試みである2回の遠足を行うことができました。

代表として、参加している全員が楽しく活動に取り組むことはもちろんですが、安全に家まで帰ることを第一として活動に取り組みました。幹部だけでなく部全体で責任感を高めることができ、活動の質が向上したと感じています。

2026年度には、より多くの参加者の笑顔がうまれ、たくさんの学生が気軽に参加できるような活動になっていくことが目標です。

代表

SHIMOKAWAJI TAIGA

下川路 大雅

文学部
3年次生



2025年度の活動報告

2025年度の活動では、室内での工作体験や、屋外での運動遊びが月に1回の主な活動でした。5月には吹田市の万博記念公園、11月には吹田市EXPOCITY内にある体験型ミュージアム「NIFREL（ニフレル）」へ遠足に出かけました。8月には吹田市自然体験交流センター「わくわくの郷」で子どもたちと1泊2日のキャンプを行いました。これらの活動に参加した全員が、関わり合っ

た中で楽しみながら学ぶことができる活動を行うことができました。また、吹田駅前商店街で実施している「2025ハロウィンであるこ」という企画や、地域団体からの依頼を受け「かたやまこどもバル」などのイベントに参加しました。



スクール活動



スクールキャンプ



スクール遠足

準登録団体

学生団体KUMC



活動内容

高槻市・吹田市を中心に、地域の子どもたちに向けた「防災授業」や「防災啓発」、地域イベントの準備や運営サポートといった「地域貢献」の活動に学生視点から取り組んでいる。

地域の子どもたちを中心に防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着型の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こったときに、自分たちが伝えた内容が生かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて企画運営や警備のボランティアなどに参加することで、地域を盛り上げるお手伝いをするなどの地域貢献活動にも取り組んでいる。

代表者の声

KUMCの活動に取り組む中で、防災は単に災害への備えではなく、人々の日常や安心、地域のつながりにも関わる裾野の広い分野であることを実感しました。また、地域の方々と交流する中で、「災害への備え」は一人ではなく、地域全体で支えあうことが重要だと学びました。

代表として過ごした1年間では、多様な価値観や考え方に触れる機会が多く、自分自身も「相手にどう伝えれば関心を持ってもらえるか」を常に考えるようになりました。その中で、防災を特別なものとしてではなく、日常の延長線上にある身近なものとして捉えてもらう重要性を学びました。

この経験を通して、防災の可能性を広げていくことは、人々の安心や未来を支えることにつながるのだと改めて認識することができました。

代表

TSURUMOTO RYOTA

弦本 亮汰

社会安全学部
2年次生



2025年度の活動報告

2025年度は、高槻で約220名、千里山で約440名の部員で活動しました。高槻では、年間約40件のイベントに参加し、防災啓発活動や運営ボランティアに取り組みました。特に、「高槻ジャズストリート」や「高槻まつり」などのイベントには、100名を超える部員が参加しました。

また、イベント参加時に関大ブースを出店させていただき、関大ブースではゲームと防災を掛け合わせた防災ゲームを実施しました。防災射的や防災魚釣り、防災ストラックアウトなどを通じて、地域の子どもたちに楽しみながら防災について学んでもらいました。

その他にも、団体として所有している水消火器や液状化実験装置を活用して、子どもたちだけでなく、さまざまな年代の人へ向けた防災啓発活動にも取り組みました。



古墳フェス『はにこっと』活動中



古墳フェス『はにこっと』準備中



古墳フェス『はにこっと』集合写真

準登録団体

WEVO



活動内容

WEVOでは、関西大学堺キャンパスを拠点に、子ども食堂、フリースクール、障がい者作業所、地域のお祭り等さまざまな場所でボランティア活動を行っています。

活動にあたっては、メンバーが気軽に続けられるボランティアであることをめざしています。責任感や義務感だけで行くのではなく、学生自身が自発的に「行ってみたい」と思える気持ちを大切にしており、それぞれの生活に合わせて参加できるハードルの低い環境づくりを意識しています。

特別な意気込みがなくても、地域の現場に足を運び、子どもたちや地域の方々と自然に関われる場であることを重視し、学生が気軽に参加し続けられるサークルをめざしています。

代表者の声

私が代表として最も注力したのは「ルールの制度化」です。以前はルールが曖昧で、活動に参加せず所属しているだけのメンバーも多く、ボランティアを募ることに苦労していました。

そこで、一定の活動の担い手を確保できるよう制度を確立し、誰がどこで活動したかを報告LINEで可視化する仕組みを作りました。活動状況が見える化し、やるべきことが明確になったことで、メンバーが「気兼ねなく、自分のペースで続けられるサークル」へと変化し、多くの現場で活動者を増やすことに成功しました。

ボランティア先に迷惑をかけない体制を整えられたことは、大きな手応えです。今後も、誰もが自然体でボランティアとして社会に貢献できる環境が続いていくことを願っています。

代表

IIZUKA AYA

飯塚 彩

人間健康学部
2年次生



2025年度の活動報告

2025年度も地域のさまざまな現場で、幅広い世代の方と関わるボランティア活動をしました。

フリースクールでは、子どもたちの学習を見守り一緒に遊んだり、子ども食堂では、子どもたちと一緒にごはんを作って食べるといった活動をしました。また、社会見学プロジェクトではキッズプラザへ子どもたちと一緒に出かけました。特別養護老人ホームでの英会話教室では、Zoomを通じて英単語クイズを出しながら楽しくコミュニケーションを図りました。

どの活動も地域の方や子どもたちから直接「ありがとう」という言葉をもらうことができ、参加したメンバーにとっても大きな励みになりました。



ひらく寺子屋(子ども食堂)



スーパーコート(高齢者施設)



キャンパス祭でのレモネード販売

※団体都合によりモザイク加工を施しております。

Ⅳ ボランティア活動サポート募金について



I 使途報告とお礼

ボランティア活動サポート募金について

関西大学ボランティアセンターは、本学学生の公益に適った社会参画活動を支援することにより、学生の自主性と社会性の涵養に資することを目的として、2005年4月に大阪府内で初めて開設されました。

ボランティア活動サポート募金は、ボランティアセンターが主催・連携する事業等に参加する本学学生のボランティア活動を支援するために2022年11月から開設した募金です。

2025年度の使途報告

① 法政大学連携事業～富士山森づくりボランティア～

静岡県富士宮市で実施の富士山森づくりボランティアにおいて、学生が負担する交通費の一部を援助する形で利用させていただきました。



② 被災地支援プロジェクト 写真洗浄ボランティア～関西大学から届ける能登への想い～現地活動

関西大学ボランティアセンター設立20周年記念事業として石川県輪島市で実施した被災地支援プロジェクトにおいて、参加学生らの交通費、現地バス代、宿泊費、保険代、現地交流企画費等の一部を援助する形で利用させていただきました。



また、ボランティア20周年記念事業 能登復興サポート募金を別途開設し、復興を願う花火打ち上げ費用他に活用させていただきました。

③ マイクロプラスチックプロジェクト 友ヶ島清掃ツアー

関西大学ボランティアセンター設立20周年記念事業として和歌山県友ヶ島で実施した友ヶ島清掃ツアーにおいて、参加学生らの往復乗船費用として利用させていただきました。



心からの感謝とお礼

このたびは、関西大学ボランティアセンターの活動にご理解を賜り、ボランティア活動サポート募金にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

20周年記念事業として実施した2つのプロジェクトのみならず、三大学連携協定事業として法政大学主催の活動に参加するにあたり、皆様から賜りましたご寄付は、学生の交通費等の負担を減らし、より多くの学生がボランティアに参加できる環境を整えるための大変ありがたいお力添えです。これにより、ボランティアセンターの活動目的の達成や、学生スタッフの能力向上に大きく寄与し、ボランティア活動の発展につながっております。

2025年度には、24件ものご寄付を賜りました。心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援が、私たちの活動を力強く後押ししてくださっております。

いただきましたご寄付は、ボランティア活動の発展に有効活用させていただきますので、今後とも我々の活動を温かく見守っていただければ幸いです。

V 資料



ボランティアセンター内規

制定 平成17年4月28日

(趣旨)

第1条 この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第2項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、関西大学（以下「本学」という。）学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボランティアの相談に関すること。
- (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
- (3) ボランティア講習会に関すること。
- (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
- (5) その他ボランティアに関すること。

(登録)

第4条 センターの利用を希望する学生は、登録するものとする。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

(ボランティア連絡協議会)

第6条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第2項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 学生センター副所長 1名
- (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- (4) 学生サービス事務局長
- (5) 学生サービス事務局次長
- (6) ボランティア活動支援グループ長
- (7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパス事務グループ・高槻ミューズキャンパス事務グループ・堺キャンパス事務室）若干名

3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は議長の指名による。

4 第2項第1号、第2号及び第4号から第6号までに規定する委員の任期は、役職任期中とする。

5 第2項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

第7条 センターに、学生スタッフを置く。

2 学生スタッフは、第3条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

(事務)

第8条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

(補則)

第9条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この内規（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際、第6条第2項第3号により選出される委員の任期は、同条第5項の規定にかかわらず、平成26年9月30日までとする。

附 則

この内規（改正）は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、2019年10月1日から施行する。

関西大学ボランティアセンターにおける ボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動
- 2 営利を目的としない活動
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動

(1) ボランティア募集の受付

- ① 初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
- ② 来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ ボランティア募集团体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④ 学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤ 個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

(2) ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

- ① 法令に違反するもの
- ② 公序良俗に反するもの
- ③ 人体に有害なもの、危険が伴うもの
- ④ 政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの
- ⑤ 関西大学ボランティア連絡協議会が不適當であると判断するもの

(3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

- ① ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ② ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④ 学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。

⑤ 次の内容を含む活動については紹介できないこととする。

(ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動

(イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの

(ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの

(エ) 車の運転

(オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

(4) 免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以 上

ボランティア活動サポート募金による助成の取扱内規

2022年10月3日

(目的)

第1条 本募金は、関西大学ボランティアセンター(以下「本センター」という。)が実施するボランティア活動に参加する本学学生を支援するための事業である。

(取り扱い)

第2条 本助成の取り扱いは、次のとおりとする。

- (1) 原則として、募金を収受した年度の翌年度の4月1日から3月1日までの活動を助成の対象期間とする。
- (2) 収受した年度の翌年度5月に、助成対象の活動及び金額の配分をボランティア連絡協議会で決定する。また、ボランティアセンター長は、当該年度末にボランティア連絡協議会に助成に要した支出の報告を行わなければならない。
- (3) 本センターが主催、自治体等と共催及び連携する事業で、本学学生が行うボランティア活動を助成の対象とする。
- (4) 学生からの申請に基づき、ボランティアセンター長が必要と認める経費の助成を行う。
- (5) 学生が助成金を授受できる期間は、助成対象年度の3月31日までとする。
- (6) 年度末において配分額に残額が発生した場合は、翌年度の当該対象活動に繰り越さず、改めて翌年度に配分する計画に組み入れるものとする。

(留意事項)

第3条 本助成に係る留意事項は、次のとおりとする。

- (1) 個人の能力・技術向上のためのスキルアップ講座等に係る経費は、助成の対象としない。
- (2) この内規に定めるほか、本サポート募金による助成の取り扱いに関し必要な事項は、ボランティア連絡協議会の議を経て定める。

以 上

ボランティアセンター事業参加に係る 学部生及び大学院生以外の者の取扱い

2022年10月14日

ボランティア活動支援グループ

ボランティアセンターが行う体験ツアーや講座において募集対象とする学生は、学籍を持つ学部生及び大学院生の正規学生を想定し、本センターはこれらの学生の正課外活動となるボランティアに関する活動を支援している。

このたび、本センターが主催・連携しているボランティア募集において、科目等履修生から申し込みがあった。これまで学外者を含めて参加に係る照会もあったことから、これを機に、ボランティアの魅力に関大生だけでなく、正規学生以外に対しても広めることとし、下記のとおり取扱いを定める。

記

1 本学学部生及び大学院生の他に参加を認める者について

(1) 非正規学生

(関西大学学則、大学院学則、法務研究科学則及び会計研究科学則に規定する正規学生を除く者)

(2) 留学生別科在籍者

(3) 併設学校在籍者

(4) ボランティアセンター長が認める者

2 参加を認めるボランティア体験ツアー等について

(1) 非正規学生及び本学留学生別科在籍者は、次の活動の参加を認める。

ア 本センターが主催して本センターのみで実施する活動として、関大クリーン大作戦、淀川掃除、大和川掃除、講座

イ 本センターが他団体と連携する事業のうち、他団体が許可する活動として、献血呼びかけ、スポゴミ

ウ 各団体からのボランティア募集に関する情報の閲覧

(2) 併設学校在籍者については、当該学校と協議し、学校長が承諾したもの

(3) その他ボランティアセンター長が認める活動

3 非正規学生及び別科生に係る対応時の留意事項

(1) 非正規生及び別科生用のボランティアセンター来室カードの記入を求める。

(2) 保険は、参加者自身で加入することとし、本センターでは加入しない。

(3) 定員のあるものは、学部生及び大学院生を優先する。

(4) 寄付金を充当する活動への参加は原則認めない。

(5) 本センター予算で補助（バス代等）を行う活動への参加は、原則認めない。

以 上

2025年度事務組織図

(2025年4月1日現在)

理
事
会

常
任
理
事
会

法人本部

総合企画室	企画管理課 広報課
総務局	秘書課 総務課 法務課 安全管理課 東京センター
人事局	人材開発課 給与・福利厚生課
財務局	財務課 出納課
管財局	管財グループ 施設グループ
初等中等教育事務局	初等中等教育課 第一高等学校・第一中学校・幼稚園事務室 北陽事務室 初等部・中等部・高等部事務室
事業推進局	事業推進グループ

大学本部

学長室	学長課
研究推進・社会連携事務局	研究支援・社会連携グループ 研究所事務グループ 先端科学技術推進機構グループ 地域連携・高大連携グループ
国際事務局	国際教育グループ 国際連携グループ 国際プラザグループ
学事局	教務事務グループ 授業支援グループ 学生相談・支援センター事務グループ 学部・大学院事務グループ
高槻事務局	高槻キャンパス事務グループ 高槻ミューズキャンパス事務グループ
堺事務局	堺キャンパス事務室
入試事務局	入試・高大接続グループ 大学院入試グループ 入試広報グループ
学生サービス事務局	学生生活支援グループ 奨学支援グループ ボランティア活動支援グループ スポーツ振興グループ 保健管理センター事務室
キャリアセンター事務局	キャリアセンター事務グループ キャリアセンター理工系事務グループ
学術情報事務局	図書館事務室 博物館事務室 出版部出版課 情報推進グループ 情報基盤グループ 業務DX推進グループ
監査室	吹田みらいキャンパス事務室 国際化推進事業支援事務室

2025年度 関西大学ボランティア連絡協議会構成員

2025年4月1日

役 職 ・ 所 属	氏 名	任 期	備 考
ボランティアセンター長 (経済学部・教授)	石 井 光	役職任期中	内規第6条第2項第1号に定める 議長
学生センター副所長 (総合情報学部・教授)	谷 本 奈 穂	役職任期中	内規第6条第2項第2号に定める 副議長
経済学部・教授	北 川 亘 太	2024.10.1 ～2027.6※	内規第6条第2項第3号に定める
政策創造学部・教授	西 山 真 司	2024.10.1 ～2027.6※	内規第6条第2項第3号に定める
人間健康学部・教授	福 田 公 教	2024.10.1 ～2027.6※	内規第6条第2項第3号に定める
学生サービス事務局長	奈 須 秀 治	役職任期中	内規第6条第2項第4号に定める
学生サービス事務局次長	依 藤 康 正	役職任期中	内規第6条第2項第5号に定める
ボランティア活動支援グループ長	宗 田 喜 美 子	役職任期中	内規第6条第2項第6号に定める
ボランティア活動支援グループ	新 谷 祐 希 竹 村 峻 橋 野 真 歩 三 浦 茜		内規第6条第2項第7号に定める
高槻キャンパス事務グループ	恵 美 克 哉 御 崎 基 河 端 愛		内規第6条第2項第7号に定める
高槻ミューズキャンパス事務グループ	小 出 翔 太 上 平 純 菜		内規第6条第2項第7号に定める
堺キャンパス事務室	中 尾 光 楠 田 佳那慧		内規第6条第2項第7号に定める

内規：ボランティアセンター内規

※2024年10月1日から2027年4月1日以後最初に招集される定時評議員会（2025年4月1日施行の改正私立学校法の定めによるもの）の終結の日までとする

2025年度 活動報告書(第20号)

発 行 日 2026年8月

発 行 所 関西大学ボランティアセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL 06-6368-1229 FAX 06-6330-3703
E-mail : volunteer@ml.kandai.jp

印 刷 所 大都印刷株式会社
〒550-0014 大阪市西区北堀江3丁目6-3
